平成15年度

全国消防団員意見発表会
消防団地域活動表彰式

報告書

平成16年3月　総務省 消防庁

平成 15 年度

全国消防団員意見発表会・消防団地域活動表彰式

報　告　書

平成 16 年 3 月

総務省消防庁

ま　え　が　き

我が国には、火災等の災害から住民の生命、身体、財産を守る消防の機関として、消防本部・消防署の外に、消防団があります。消防団はほとんどの市町村に設置され、平成 15 年 4 月 1 日現在、全国で 92 万 8,432 人います。学生、サラリーマン、自営業者、主婦などさまざまな方が、消防団員としての身分を持ち、地域における消防防災の中核的存在として、地域の安全・安心ために活躍しています。

全国の消防団の現状を見ると、多くの消防団では、近年の社会環境の変化等を受けて、団員数の減少や団員のサラリーマン化・高年齢化など、様々な課題に直面しています。そこで、全国各地の消防団においては、この課題を強く受け止め、地域社会や事業所からの理解・協力はもとより、若手・中堅団員や女性団員からの様々な意見を取り入れることにより、その解決を進めています。

このような中、消防庁では、地域の実情に合わせた斬新で特色ある活動を常日頃展開し、魅力ある地域づくりを推進している消防団や、消防団員である社員の消防団活動への出動を支援するなど、消防団活動に特に深い理解があり協力度の高い事業所に対し、表彰を行っています。また、全国の団員の活動意欲を喚起するような若手・中堅団員や女性団員による意見発表会を行っています。

この度、平成 16 年 2 月 6 日に開催されました「平成 15 年度全国消防団員意見発表会・消防団地域活動表彰式」の概要を本冊子にまとめました。全国の消防団の皆様や関係する事業所の皆様の今後の活動の一助となるものばかりですので、魅力ある地域づくりのために大いに活用にしていただきたいと思います。

また、各地方公共団体等でも、事業所表彰、意見発表会などの対策を推進・展開されることを期待しております。

おわりに、これらの各種事業に協力いただいた、全国の消防関係各位を始め、審査員・出席者の方々、そして後援・映像配信などいただいた各団体に、心から感謝申し上げます。

平成１６年３月

目　　次

◆平成 15 年度全国消防団員意見発表会 …… 1
開会あいさつ …… 2
激励の言葉 …… 4
意見発表 …… 7
審査員 …… 22
◆平成 15 年度消防団活動・支援事例報告会 …… 23
栃木県　黒磯市消防団「大規模火災時における消防団活動」 …… 24
神奈川県　横須賀市消防団「平常時の消防団活動の一層の充実と団員確保」 …… 28
福岡県　医療法人医和基会（いわきかい）
「ボランティアとしての消防団活動に理解を示す事業所」 …… 31
◆平成 15 年度消防団地域活動表彰 …… 35
式辞 …… 36
表彰事例 …… 37

平成 15 年度全国消防団員意見発表会

■　平成 15 年度全国消防団員意見発表会　発表者　■

（最優秀賞及び優秀賞を除き都道府県順、敬称略）

賞	発表者	都道府県	所属消防団	発表テーマ
最優秀賞	佐藤　幸三	長崎県	島原市消防団	自然災害における消防団活動と私
優秀賞	山田　久就	石川県	能都町消防団	信頼の架け橋
	小林ミス子	広島県	呉市消防団	消防の顔
優良賞	佐々木　宏	岩手県	東山町消防団	つなごう　愛・勇気・ちから
	菅原　克浩	宮城県	河南町消防団	山が動いた
	土岐　美麿	茨城県	日立市消防団	操法訓練を通して得たもの
	加藤　幸雄	富山県	朝日町消防団	２代目の決意
	遠藤　　仁	山梨県	身延町消防団	地域に根ざす消防団
	田中　宏幸	三重県	松阪市消防団	ボランティアに目覚める
	薮　まゆみ	兵庫県	川西市消防団	転んでも消防団員！！
	松尾　陽一	鳥取県	溝口町消防団	消防団活動を通じて得たこと
	中野　孝彦	佐賀県	佐賀市消防団	私を変えたあの日の火災

開 会 あ い さ つ

消防庁長官　　林　　省吾

本日は消防庁主催の意見発表会に対し、この様にたくさんの皆様にお集まりいただき、大変うれしく、また心からお礼を申し上げさせていただく次第です。本日、各地域で活躍されておられます団員の皆様方の意見発表・提言が予定されていますが、その審査をお引き受けいただいております審査員の先生方に対しましても、この場をお借りして心から厚く御礼を申し上げます。

さて、今日お集まりの皆様方は既に、申し上げるまでもなく御案内のことと思いますが、昨今、消防防災行政を巡る状況は大きく変化をしてきております。火災一つを取ってもその件数、内容が変わってきています。さらに加えて昨年度を思い起こしても、これまで例を見なかったような企業災害が発生する、あるいは宮城県北部地震のように大変大きな被害が出た地震が多発する、あるいは台風被害が起こるなど、自然災害も大変規模の大きいものに直面するような時期に来ている気がします。加えて、昨年度来、有事法制の議論の中で国民の権利保護、地域の安全を守るための国民保護法制が検討されているところですが、それに関連して地域を守る責任を有しています消防防災行政関係者の役割がますます重要なものとして認識されるようになってきています。

そのような中で、今日お集まりの消防団関係の皆様方、時代の変化をひしひしと身に感じておられ、任務の重大さを認識してくださっているものと思っていますが、消防庁といたしましても、この様な消防防災行政を取り巻く状況の変化を考えると、災害から地域を守り、地域の住民の方々を守るという任務を与えられています。特に、地域におきまして地域と密着して活躍されておられます消防団の方々に多くを期待しなければならないと考えているところです。改めて申し上げるまでもありませんが、私が消防団の皆様方に期待しているところというと、地域に密着して活動していることが一つ、いざ有事、いざ発災という時に、消防職員では間に合わないのです。全国約 93 万人に上る消防団の皆様方の要員動員力の大きさ、さらにいざ発災というときに、すぐ駆けつける事のできる速効性、こういう点を考えても消防団の皆様方に多くを期待しなければならない状況のあると思っています。

その様に消防団の役割は、単に地域における訓練、火災の予防、消火、救急だけでなく、これから想定される自然災害、企業災害、あるいは有事の際の地域の住民方々の安全確保のために、様々な役割を担っていただかなくてはなりませんが、加えてその様な任務を通じて、地域のコミュニティの確保のためになくてはならない存在として、その重要性が地域の方々からも認識されるようになってきていると思っています。

しかしながら、消防団を取り巻く環境は決してすべて順調なものばかりではなく、団員の数が減ってきている、高年齢化が進んでいる、サラリーマン化しているなど様々な課題を抱えていることも事実です。その様な中にあって、消防庁といたしましては、先程来申し上げたように消防団の重要性を強く認識し、改めてその必要性を高く確認した上で、今後とも消防団活動の活性化のためにできるだけの努力、支援をしてまいりたいと思っております。

本日の意見発表会もその一つでありますが、消防庁といたしましては、今後とも今日午後にも予定している優良消防団や協力事業所の表彰、施設・資機材の充実や消防団員の処遇改善をはじめ、さらには団員確保のために例えば郵政公社職員に対する消防団への加入の勧誘などにも意を持ち、消防団がその役割を今後とも的確に果たしていくことができるよう環境整備に努めてまいりたいと考えています。まずは、様々な地域の若い手の団員や女性団員の方々から消防団活動に関する課題を発表していただき、これを全国に紹介させていただきたいと思っております。これによって、全国各地の団員の意欲が一層喚起されることを期待いたしているわけです。本日発表されます皆様方におかれましても、今回の御意見、御提言を是非今後の消防団活動等に活かしていただけますよう、お願いしておきたいと思います。

最後に全国の消防団活動の活性化と本日御参加いただきました皆様方の御健勝を心からお祈り申し上げまして、私の挨拶とさせていただきます。

激 励 の 言 葉

語り部・かたりすと・キャスター　　平野　啓子　氏

皆様こんにちは、平野啓子でございます。

私は語るということを仕事にしていますが、あるところで発生した火災やその時の被害は、しばらくの間、人の心に生々しく記憶されていると思いますが、いずれは過去のものになってしまいます。日頃の私達が耳にする言葉、その中には、体験や経験、そして現場を見ることが大切だとよく言われる言葉です。しかし災害だけは、本来経験しない方がいいのであって、体験もしない方が良い、遭わない方が良いわけです。一人ひとりの限られた時間の中で、すべての現場を見て歩くことはできません。そこで人の口から口に話しを伝えていくということが大切になってくると思います。家の中で親が子に、あるいは、お婆ちゃんが、お爺ちゃんが、お孫さんに様々な防災の知恵など伝える、短い言葉で、普通の言葉で伝えている、そんな状態が一番望ましいのではないかと思います。

また、人から人の口に、伝えられる言葉というのは、時代によって、変えなければいけない。変えなければいけないのだけれど、なかなか変えていくことができないのです。私は最近知ったことなのですが、子供の頃、私たちは地震がきたら揺れがひどい時であろうと、何であろうと、まず火を消しなさいと言われて育ってきました。家の中で聞く言葉ですから、学校で教わるのと違って、何十回、何百回と学習され、親から聞かされ、たたき込まれてきました。しかし、最近知ったのは、火がついていようと何であろうと、地震がきたらまず身を守るために机の下に潜れとか、避難しなさいということが第一だという事を聞いてびっくりしました。先程も専門家の方から「実はそうなのですよ」と教えていただきました。今日お集まりの皆様にとっては当たり前の話に思うかも知れません。しかし、私たち専門的に携わっていない者からみれば、災害時にガスが自動的に止まるシステムになっているということを知っている人は少ないですし、それから新たに聞いてびっくりしたのは、災害時にブレーカーが上がったまま停電になるので、通電したときに発火してしまうのだという話を初めて聞いてびっくりしました。先日知人に、「火を止めるより、まず身を守れ」という話などをしていたら、みんな「何故、何故？火を止めなければ火災になるでしょう」とやはり昔から言われているほうに意識がいっているのが分かりました。

そこで、時代が変わるとともに今の時代に合った正しい情報を人から人の口に伝えられるようにしなくてはいけないと、強く感じました。今日新たな情報を知ったものですから、すぐに覚えられなくてメモを見ながら話させていただいているのですが、物事をすべて暗記して話しているのと、それから何かを見ながら話しているのとでは、大分感じが違います。これは私が普段行っている語りの舞台の経験でもよく感じることです。今デモンストレーションでやってみましょう。

子供の頃に親しんだと思われますが、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』の作品を朗読しますと、大抵の人はこう読みます。

（原稿を読みながら）「ある日の事でございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶ

らお歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊（ずい）からは、何とも云えない好（よ）い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう」

このように、例えば情報は正しく伝わると思います。誰が、どこで、何をした。しかし、人の心の中に言葉から広がっていく風景の広がり方はどうでしょう。今のように、文字を追って読んでいくと、どうしても目で文字を追うスピードに追われてしまって、どんどん読んでしまうのです。しかも、大きな間を置いた場合、不自然なことがあるのです。ですから朗読の場合、文字に従って、比較的ある程度のスピードで読んでいくということになります。しかし、今の同じ文章を語るとどうなるか。語るとは基本的にたとえ人の書いた文章であっても、いったん自分が覚えて、自分の心の中に持ち歩き、その持ち歩いている言葉を自分の言葉として、人を前にして伝えることです。自分で楽しむことではありません。語るというのは人に語りかけることだと私は思います。会場の広さや、お客様の年齢層、集まっている人数によっても大きく間が変わってきます。皆様のお顔を一人ひとり拝見しながら語るので例えばこの様になっていきます。同じ文章を語ってみましょう。

（原稿を見ないで）「ある日の事でございます。お釈迦様は極楽の蓮池のふちを、独りでぶらぶらお歩きになっていらっしゃいました。池の中に咲いている蓮の花は、みんな玉のようにまっ白で、そのまん中にある金色の蕊からは、何とも云えない好い匂が、絶間なくあたりへ溢れて居ります。極楽は丁度朝なのでございましょう」

このくらいの間になると思います。多少もたもた話しているように聞こえるかもしれませんが、一言一言のイメージはどのくらい膨らんでいるでしょうか。先ほどすらすらと読んでしまった時に比べ、大きく違って聞こえたのではないでしょうか。こうやって客席の皆様の目を見ながら、アイコンタクトしながら言葉を伝えないと、伝わらないのではないかと思います。それを教えられたのは子供たちを前に語った時だったのです。子どもは正直ですから、話の内容がよく分からないとすぐに騒ぎ始めてしまいます。大人は黙って聞くという習慣ができているので、我慢して聞こうと理解し努力しようとしてくれるから、どんな話も聞いてくれるのだなとつくづく感じたところなのです。そこで私は、せっかく子供から教えられた、アイコンタクトしながら語るということを是非多くの人に伝えていきたいと思っています。そしてそのことが、非常に大切なことを相手に伝えるのではないかと確信して

います。情報というのは、もちろん正しく伝えることが大切ですが、どんなに正しく伝えても、いつか何年何月何日というのは忘れてしまうことがあります。そして、また、そうした情報は文献で後から調べることができると思います。しかし、その時、その時間を使って伝えられた人の心、それが聞き手の心の中に大きく広がって焼き付けられたことは、かなり長いこと聞き手の心の中に留まるのではないか思います。

今日の皆さまのお話を審査させていただきますが、同時に私も語り部として皆様のお話をよく伺って、その内容を身近な人に伝えていきたいと思っています。そして、また、会場にお集まりの皆様にも一人ひとりに語り部になっていただき、今日の意見発表会から、広く地域に消防に関する情報、人の心、防災の心などを広げて行っていただければと思います。この意見発表会が開かれることは大変大きな意味があると思います。今日皆様は緊張していらっしゃると思いますが、話をうまく伝えようと思わずに、何を伝えたいか、どういう心を伝えたいか、ということを中心に緊張せずに頑張って語っていただきたいと思います。

こんなことで激励の言葉になるかどうか分かりませんが、今日の皆様のお話を期待しております。どうもありがとうございました。

最優秀賞　長崎県　島原市消防団　　佐藤　幸三　さん

自然災害における消防団活動と私

自分の住む場所を守りたい。これは誰でも思うことです。平成 3 年 5 月 15 日未明、普賢岳東側斜面に位置する水無川側上流にて最初の土石流が発生以来、雲仙普賢岳は私たち消防団にその自然の大きさをまざまざと見せつけることとなったのです。

地元住民をあざ笑うかのように、進展する自然災害に、振り回される状態が続く中、6 月 3 日、この日も午前中から雨が降り続き、相次ぐ火災流によって、土石流を感知するワイヤーセンサーを設置できないまま、発生の通報は消防団員の目が頼みの綱となっていました。午後 3 時頃、分団長とともに、上木場地区の詰所を訪れましたが、そこでは小雨の降る中、外で双眼鏡を持ち、山を監視する者、部屋の中で仮眠を取る者など、10 人ほどの団員の姿がありました。普賢岳は時折雲の間から、小規模な火砕流を発生していましたが、それ程の危機感もなく、私たちは山を降りました。

しかし、その後火砕流は頻繁に発生するようになり、午後 4 時 8 分、「大規模火砕流発生、直ちに退却します。」、警戒中の消防署員の緊張した声が無線に飛び込んできたのです。私たちはすぐに外に出ましたが、それまで見たこともない、巨大な火砕流のキノコ雲が、想像を超える速さで地を這うように流れ落ちてきました。私たちはすぐに消防車のサイレンを鳴らし、地元住民の避難広報へと走り回っていたその時です、火山灰が降りしきる中、ふらふらと今にも倒れそうな人影を発見。「ケガをしている。救急車を手配してこい、俺が乗せてくる。」と分団長の怒鳴る声、そしていつしか私たちの消防車の荷台には顔は真っ黒く腫れ上がり、全身は真っ白く、身体に焼きつき焼き熔けてぼろぼろになっている洋服、だれがだれなのかまったく分からない 5 人の姿がありました。よく見ると自分と同じ作業服を着た先輩や、後輩の変わり果てた姿だったのです。私たちはそのまま病院まで搬送することとし、生暖かい泥雨が降り、大渋滞の中、分団長は運転席から身を乗り出して必死になって運転し、私は病院に付くまで何度も何度も「しっかりせろ、しっかりせろ、目ば開けろ、寝るな。」と声をかけ続けたのですが、ただ黙って座っている団員、同じ火傷を負いながらも「しっかりしろ」と

仲間を励ます団員、私の名を呼び「水ば、水ば」と訴える団員、病院に着き私の肩にしがみつき「ごめん、ごめん」という団員、次々と運び込まれている怪我人で、病院のロビーは戦場と化しました。

家族を残し無念の思いで亡くなった 12 人の作業服の左の胸には焼き溶けてぼろぼろになっていたとはいえ、「島原市消防団」という文字が確かに残っていました。これは消防団員としての使命を果たすため、「自分たちのまちは自分たちで守るんだ」という信念を貫き通した仲間が残してくれたメッセージであると、12 年たった今でも私はそう信じています。

災害当時、小学生、又は中学生だった子供たちも今では立派に成長し、同じ消防団員として活躍している今、私は消防団員であることを誇りに思い、理解をしてくれる、家族に感謝し、この経験を教訓とし、これからも地域の架け橋となり、地域住民と信頼関係を築き、信頼される消防団になることが犠牲となった仲間の意志を受け継ぐことであり、消防団員としての本分を全うするものと確信します。

優秀賞　石川県　能都町消防団　　山田　久就　さん

信頼の架け橋

「操作始め。」指揮者の号令が響き渡り、一斉にポンプ車から飛び出す操作員。筒先を背負いホースを担ぎ、一心不乱に全力で走る。張りつめた緊張感の中、火点に向かいホースが一直線に伸びていく。消防団のポンプ車操法地区大会は各分団共に熱が入り優勝を目指し、力の入った姿は真剣そのもので、数ある消防団活動の中で、一番の盛り上がりを見せます。

今年もこの時期が近づき、どの分団も大会に向けての訓練が始まりだした頃、私が所属する分団では一つの大きな問題を抱えていました。「すまん。今年の大会は仕事の都合でどうしても出れん。」去年まで機関員として活躍してきたポンプ車操法ベテラン団員からの一言。それを聞き困り果てた顔の分団長は、腕組みをしながら周りを見渡し、「うーん。よし。お前に空いた穴を埋めてもらうぞ」と指さした先、何と私を指名したのです。続けて「急な話しだけれど、何も心配いらん。他の操作員もしっかりしているし、それにおまえは若いし、覚えるのも早いだろう。がんばってくれよ。」こうして私も操作員の一員として訓練を重ね、操法がなんとかスムーズにできるようになったある日のこと、訓練場の陽も沈み、暗がりでよく見えないのですが、普段着でホースを巻く 5、6 人の姿が、近づいて見るとそれは消防団員でなく私の近所に住む人たちだったのです。「あれ、じいちゃんらどうしたぁん」と聞くと、「いゃーあ、あんたら消防ががんばっているのに何か手伝だわなぁ申し訳ないやろう。そうや、そうや、いざという時には頼りにしているけれど、頼りっぱなしも気が引けるしなぁ。その代わり、もし俺んちが火事になったらすぐ消しにこいよ。」そんな冗談交じりの笑顔に「ありがとうございます」。私は思わず頭を下げずにはいられませんでした。

そして婦人会からも差し入れのおにぎりが届くようになり、私はそれを消防団に寄せられた大きな期待としてかみ締めながら、消防団と地域との密接なかかわり合いを、身を持って感じることができました。「消防団ってすばらしい。」

いよいよ大会当日、応援に駆けつけてくれた地域住民たちの「がんばれ、がんばれーっ。」という声に、私たち操作員の闘志がみなぎり、そして、全力で臨んだ操法は、優勝という結果をもたらし、今までの消防団活動の中で最高の充実感を得ることができました。

ふと、今、訓練中に分団長が私に言った言葉を思い出します。「いいか、お前の消防団人生はまだまだ長い。しかし、ポンプ車操法を続けていく本当の意味を見失うなよ」。この時答えは聞けずじまいでしたが、「何のための操法か、何のための消防団か。」今思う私なりの考えはこうです。ポンプ車操法という架け橋によって生まれた地域との繋がり、かかわり合い、そして何より今まで築かれてきた住民からの厚い信頼を決してなくさないためにも、この架け橋を守り続けたいと思います。私はこのことを忘れることなく、そして今年経験したまさに地域一丸となって手に入れた優勝、いや「信頼」という二文字を胸に、消防団のあらゆる活動に全力を注ぎ、地域住民の期待に応えるためにも、魅力ある消防団づくりを目指し、がんばっていきます。

優秀賞　広島県　呉市消防団　　小林　ミス子　さん

消防の顔

「右向け右。小林、指先を伸ばしてもっと顎を引け。」これは私が消防団に入団し始めて訓練に参加した時の一場面です。私が消防団に入ったのは、当時の分団長さんから、入団を勧められたことがきっかけです。私の住むまちは瀬戸内の島々を望む穏やかでのんびりとした、人情豊かなまちです。そんな土地柄もあって、分団長さんの頼みを無下に断るわけにもいかず、「まあ、いいか」という軽い気持ちで引き受けてしまいました。しかし、現実はそんなに甘いものではありませんでした。ポンプ操法訓練では、「小林、声を出せ、そんな蚊の鳴くような声で火が消えるか」と怒鳴られ、救急法の訓練では「そんなに悠長に構えておったら、生き返るものも死ぬぞ」とカツを入れられる始末です。それは今まで、訓練とか規律ということに全く無縁な私にとって、本当に厳しい訓練の連続でした。

そんなある日のこと、分団長から一本の電話が入りました。「小林、火事じゃ。すぐに支度をして出てこい」と言われるのです。私は焦る気持ちを抑えながら、身支度をして詰所へと向かいました。入団して始めての出動です。詰所では、既に連絡を受けた先輩たちが出動準備をしておられました。「小林、早う乗れ。」そう言われて無我夢中で飛び乗った消防自動車、けたたましく鳴り響くサイレンの音に、私の身体は震えていました。出動中の車内は考えられないほど静かで、日頃和気あいあいと話をしている先輩たちもだれ一人として言葉を交わそうとはしません。ただ、前方を見据えたまま、押し黙っています。しかし、消防車が現場に差し掛かる頃、車内は一変しました。今まで身動き一つせず押し黙っていた先輩たちが、ヘルメットの顎紐や両手の革手袋を無言で直し始め、車内は今までにない緊張感です。現場に到着すると分団長から機関銃のように指示が飛びます。「小林、わしについて来い。おまえは防火水槽から水を取れ。おまえはホースを伸ばせ。」始めて現場を経験する私はその指示を迅速確実にこなす先輩たちの姿にただただ圧倒されるばかりでした。幸いにも火事はぼや程度に済み、大事には至りませんでしたが、この時の緊張感と先輩たちのあの使命に燃えた凛々しい消防の顔を私は一生忘れることはありません。

あれから 10 年の歳月の中、火災に水害、そして芸予地震、その他消防訓練など経験を積むことに

より、自分なりの行動がとれるようになってきました。つい先日も訓練を見に来ていた知人から、「みっちゃん、顔つきが変わったね。頼もしくなったよ」と言われ、「えっ」と思ったものの、その言葉がとてもうれしくて、今までの活動が無駄ではなかったと確信しました。

災害、そこにはいつも助けを求めている人がいます。消火を待つ人、救助を待つ人などいろいろです。私はこの人たちにいつでも手を差し伸べることができれば、地域の人が安心して暮らせるまちづくりができると思っています。私一人の力はとても微力です。しかし、消防団という大きな力が一つになれば、いつか地域の人が「御苦労さん」といって声をかけてくれる、そんな安心して暮らせるまちづくりができると思います。私は、先輩たちのあの凛々しい消防の顔を忘れません。そしてあの顔に一歩でも近付くことが、地域の人に安心を与え、信頼される消防団になることだと思います。私は少しでも先輩たちのあの凛々しい消防の顔に近づけるよう。これからもがんばっていきたいと思います。

優良賞　岩手県　東山町消防団　　佐々木　宏　さん

つなごう　愛・勇気・ちから

私は火災が発生するといつも野次馬の一人でした。ある時近所で建物火災が発生し、地元消防団員がいち早く駆けつけ、火災に立ち向かう団員の勇姿がとても頼もしく、心強く感じ、私も地域のために役に立ちたいという思いから、入団を決意したのです。入団後、初任消防団員研修を受けて、消防団員の活動は、火災だけではなく水害、地震、土砂災害等、あらゆる災害から地域や財産、人命を守るという事が消防団員の使命であることを学びました。

入団６年目の平成 14 年、台風 6 号による大雨により、日本百景の一つで知られる猊鼻渓の砂鉄川が氾濫し、被害総額 169 億という東山町の年間予算の 4 倍にもあたる未曽有の大水害が発生しました。我々が駆けつけたときはまだ目立った被害がなかったのですが、浸水が始まり、わずか 30 分で目の前の民家 50 世帯があっという間に浸水し、住民は自分の力で避難することもできず、2 階の窓から手を振り、悲痛な叫び声で助けを求めていました。しかし、私は呆然と立ちつくし、どうすることもできない自分の無力さに絶望感を感じていました。その時、「救助は専門家に任せろ。お前は土のう作りに行け」という先輩の叫び声ではっと我に返り、まず自分のことをやろうと思い直し、土のう作りに駆けつけたのです。徐々に団員が駆けつけて来ましたが、不思議なことにほとんどが指示も受けずに作業に加わり、自然にラインができ、土のう作りを皆一心不乱で進めているのです。これは毎年行われる水防訓練の成果であり、日頃の土のう作りを経験し、効率の良い土のう作りを覚えているからであり、改めて訓練の重要性を思い知らされたのです。一人では何もできない私でも、皆で力を合わせれば、こんなに素晴らしい仕事ができるのだということを改めて感じ、消防団員としての任務をまっとうできた満足感に浸ることができたのです。

我が国は地形や環境条件からあらゆる災害が発生しやすい環境にありますが、それらの災害にひるむことなく、果敢に防災活動を展開してきました。地域を守り、家族を守り、命をつないできたのです。自治体消防 55 周年大会スローガン「つなごう　愛・勇気・ちから」。この中には、今求められている消防精神が集約されているような気がします。それは家族愛、人類愛があるからこそ、あらゆる災害に立ち向かう勇気が持てるのであり、この勇気を持った消防団員が、部隊行動を展開した時、計り知れない力を発揮し、自分たちの地域を、自分たちの力で守ることができるのです。この事を後世につなぐことが、私たち消防団員の使命だとスローガンが語りかけているような気がします。私も消防団員としてあらゆる災害から屈することなく緑豊かな郷土、人情豊かなふるさと東山を後世に伝えていくため、日々精進を重ねてまいりたいと思います。

「つなごう　愛・勇気・ちから」、「つなごう　愛・勇気・ちから」。

優良賞　宮城県　河南町消防団　　菅原　克浩　さん

山が動いた

「かしら中。直れ。」これは私が苦手な規律訓練の号令です。毎年秋に開催される消防演習の規律訓練です。ポンプ車操法訓練も苦手というよりは、苦痛にさえ感じていました。消防団に入ったのも周囲からの強い勧めもありましたが、「忙しい時は、いいからやー」、部長や班長からの甘い誘いがあったからです。

そうしたぬるま湯に浸かっていた私の消防団活動を、根本から考え直させる出来事が起こりました。それは昨年7月26日の未明からの宮城県北部を震源とする地震です。後に本震とされた2回目の地震の時のことでした。地中で何かがぶつかったようなすごい地鳴りと共に、これまでに体験したことのない地面が突き上げられるような縦揺れに襲われました。私は職場から自宅に戻ると、その被害に言葉もありませんでした。家は傾き、瓦は落ち、築70年の家だけは全壊になっていました。幸いなことに家族に一人もけが人が出ませんでした。その後家族から、近所に土砂崩れにより生き埋めになっている人がいるという話を聞いて、私はスコップを持ち土砂崩れ現場に向かいました。現場へと急ぎましたが、着いた時は既に救助作業は終了しており、今回の地震による私の消防団活動はこれで終わってしまったのです。

しかし、数日後、同じ分団の活動ぶりを聞き、改めて消防団員としての自分の甘さを思い知らされるものとなりました。先輩団員の中には住宅のみならず、納屋や牛小屋にも被害を受けながら、家のことは家族に任せて、消防団活動を行い続けていた人もいました。

最初にスコップを持って駆けつけた猿田地区の土砂崩れ現場の状況を先輩団員から聞いたとき、私は身のすくむ思いがしました。土砂崩れは高さ30メートル、幅約100メートル、長さ70メートルにもわたり崩れ落ち、民家まで一気に押し寄せたものであります。流れ出た土砂は、連日の雨により多くの水分を含んでおり、再び土砂崩れが起きるかもしれないという緊迫した状況の中で、民家から寝たきりのおじいさんを消防署員とともに腰まである土砂をかき分け救助したとのことでした。その時のことについて先輩団員は、「救出作業も大変だったが、また地震が起きて斜面の土砂が再び流れ出したなら、自分たちの命もないかなあと思った時は非常に恐かった」と話しておりました。

私はこれまで何度か火災現場での活動は経験しているものの、自分の身が危険にさらされた中での活動は今までしたことはありませんでした。もし自分がその場に居合わせたなら、同じ様な行動ができたかと自問自答しました。考えてみれば、父もかつては消防団員であり、周囲からも勧められ、名前だけでも団員になっていればよいかという軽い動機で、自分の本当の意志により団員活動をしていなかった自分に気付いたのであります。私の生まれ育った河南町は宮城県の北部に位置し、私の家を含めて農家が多く、ササニシキ、ひとめぼれという全国的にもおいしいと言われる米どころであります。今回の地震では私の母校、北村小学校も全壊し、建て替えが余儀なくされ、後輩たちは現在、仮設校舎で学校生活を送っています。さらに地震は、県立自然公園の旭山直下の旭山撓曲（とうきょく）が震源とされ、地元河南町民を始めとして、近隣の町民からも「旭山が動いて形が変わった」と言われています。現在、河南町は復旧に向けてがんばっているところです。確かに地震によって山は動いたかもしれません。しかし、消防団員の一人として私の気持ちも大きく動きました。自分の愛する郷土を守るために。

優良賞　茨城県　日立市消防団　　土岐　美麿　さん

操法訓練を通して得たもの

「火事だー、神社が燃えている」。自宅にいた私に急の知らせが飛び込んできました。今から 6 年前、私が父とともに神職として奉仕する種殿神社から出火、真っ赤に炎上した時の光景は今でも忘れることができません。その時の忌わしい思いを拭い切れないまま悶々とした日々を送っていた時、地元の分団長から誘いを受けました。小学生の頃、働く消防車の写生会で入選し、消防車に乗せてもらったことを学校で自慢するほど赤い消防車に憧れていた私は、神社の火災のこともあり、即座に入団を決意しました。入団するまで、消防団は火災の消火だけに活躍するものと思っていましたが、日々の訓練や各種行事への参加など様々な活動に汗を流していることに教えられ、その中でも特に操法訓練は消火活動をする上での基本中の基本であり、大変重要なものでした。

昨年は自治体消防 55 周年を記念する年でしたが、その良き年に我が分団は小型ポンプ操法部で日立市内大会、日立地区大会を勝ち進み、茨城県中央大会に出場し、3 位に入賞することができました。大会に向けての訓練は、半年にわたる大変厳しいものでした。選手は私が一番若くて 35 歳、平均年齢はなんと 45 歳。けが人が続出し大会への出場が危ぶまれた頃、私は、「ボランティア活動にむきになる必要はない」と高をくくっていました。けがをおして訓練する先輩や選手以外の人たちが黙々と手伝ってくれる姿を見て、自分の心の狭さに恥ずかしさを覚えました。

訓練開始当初は仕事帰りの薄暗い中、指導員と我々団員だけの訓練でした。しかし、日が経つにつれ、応援に駆け付けてくれる人が一人、二人と増え、訓練の半ばを迎える頃には我々の一挙手一投足に数十人の熱い眼差しが向けられるようになっていました。この様な分団 OB を始めとする地域の人達の期待に応えようと唯一無傷で大会当日を迎えた私は、「失敗は許されない」、「他の人に迷惑は掛けられない」と気負い、胸が高まり頭の中が真っ白になっていました。そんな時、けがが一番ひどいと思われた指揮者から、「これが最後の一本だ。悔いを残すな。いくぞー」との声がかかり、全員で「よーし」と応え、私も落ち着きを取り戻すことができました。その結果、訓練以上の操法をすることができ、3 位入賞に貢献できたものと満足しています。

消防団に入ったきっかけは、身に降りかかった災害でした。しかし、今回の訓練を通して、私は皆が目標に向かい心を一つにして取り組んでいくことの素晴らしさを教えてもらいました。そして、団員の絆がより深く、強固なものになり、「団員相互の信頼」というかけがえのない財産を得ることができました。さらに地域の人たちの期待に応えるべく、単なるボランティアとしてではなく、人間として自分を磨き、団員として技術を磨くことの大切さを身に染みて強く感じました。これからは今回の訓練で得たことを糧に、地域に親しまれる魅力ある団員を目指すとともに、人に優しい消防団活動ができるよう日々精進していきたいと思います。「地元を愛する心」、「奉仕の清心」、「消防団員としての自覚」、これらを誇りに。

優良賞　富山県　朝日町消防団　　加藤　幸雄　さん

２代目の決意

私が所属する分団には、過去に父親も消防団員であったという 2 代目団員が全体の約半数います。かく言う私もその中の一人です。私が入団した理由は、引退した父の意志を引き継ぎ地域の安全を守るという消防の精神と郷土愛護の精神に燃えてといった、そんな格好のいいものではありませんでした。団員当時の父は漁師のため朝は早くから海に出て、日中体を休め、夜は早く寝るという生活でした。しかし、一旦火災や水難事故が発生した時には、先導をきって出動していました。そんな一所懸命な父の姿を幼い頃より見ていた私には、その活動がとても大変なことに感じていたため、入団への勧誘を長年断っていました。その私が何故入団したかといいますと、御承知のとおり地方では過疎と高年齢化が進んでいる状況の中で、私の住む地区も例外ではありません。生活に便利な町へと流れ出て地域には若者が減少し、消防団員になる後継者がいなくなってきています。このような現状のため団員の減少が進み、分団としての存続にかかわる自体に陥ってしまったからです。

私は平成 12 年に仲間 6 人と一緒に入団しましたが、勧誘の際、地元の副分団長がこのように言いました。「このままではこの分団はなくなる。消防団は「自分の地域は自分らで守る」という理念で成り立ってとんがいぞ。お前らも家族を守ること、よそに任せてもいいがか。地元を守る分団はなくなってもいいがか」。この一言が私達の心を動かし、分団をなくしてはいけない、地元を守ることをよそに任せてはいけないのだと言い合って入団しました。

団員となった私達がまず覚えることは、消防水利でした。私が住む朝日町宮崎地区は新潟県との県境にある昔ながらの漁村で、住宅が密集しています。その中に消火栓、防火貯水槽が数多く設置されていますが、私が子供の頃には、防火貯水槽は一つしかありませんでした。しかし、この地区の火災に対する意識の高かった先人の努力により、防火貯水槽も数多く設置され、百トン級の貯水槽も設置されました。幸い私の住む地区を含め朝日町は火災発生が極めて少なく、入団後火災出動の経験はほとんどありません。この様な中で私達は、消防水利の確認、隔週土曜に行う夜警による防火思想の普及などに多く活動しています。入団して 3 年余りが経過していますが、管内での火災の発生がないことは、地域に密着した先人の意志を引き継いだ消防団があるからこそであります。

入団当初は分団の存続ばかりを考えていた私でしたが、今では自分の中で、父の意志から先輩の意志になった消防団の精神を私たちが受け継ぎ、これから次の世代へと継承し、そして生まれ育った地域を守っていきたいと思っています。

優良賞　山梨県　身延町消防団　　遠藤　仁　さん

地域に根ざす消防団

私の住んでいる身延町は山梨県南部に位置し、全国に名高い日蓮宗総本山身延山九品寺があり、古き良き伝統、歴史と信仰の町として、また山紫水明、風光明媚といった形容がふさわしい大自然のある町です。最近の町の傾向としては、次代の担い手となるであろう年齢層は職場や学校に近い都市部へと流出し、人口の形態として少子高齢化が著しく、減少傾向にあります。その中でも、私の所属している豊岡分団は顕著な例といった地域の分団です。そのため、必然的に若年層は何らかの事情がない限り消防団に所属することになります。私の父たちの世代も、その前の世代も、代々消防団員として経験を重ねてきました。私も消防活動について何も分からず、ただ流れの一つとして消防団に入団し７年が経ちました。その中で感じたことといえば、地域との連携です。

この 7 年の間に住宅火災、行方不明者の捜索、県消防操法訓練大会の手伝いと様々な経験をしました。そこにはいつも地域の応援や、暖かい手がありました。常にだれかが「消防さん、いつも大変だね」、「御苦労様、がんばってね」、「ありがとう」の声を掛けられたり、先輩諸氏、また、地域住民の心のこもった差し入れがあったり、日々の中でここでは言い表せないほど多くの様々なコミュニケーションが図られてきました。

また、毎年 9 月の防災の日に、消防署、電力会社、電話会社等、関係団体の協力と、自主防災組織の参加の下、町での大規模な防災訓練を実施しています。他では参加者の少ない地域も結構存在すると思われますが、私の地域では消防のことなら協力しよう、私も参加してみようと自主的な態勢が見受けられます。私もその気持ちに応えるべく、消防団員として、自主防災組織による初期消火訓練、消火栓等の使用はもちろん、地域の一員として地域の行事に参加する中で、周囲の人とのスキンシップを大切にしています。こういった一体感によって、住民すべてが消防活動の大事さを知り、その積み重ねが過去において安全を生んでいるのだと経験を積むにつけ実感しています。

有事の際、迅速に行動できる一つとして、大事なのは一人ひとりが防災に興味を持ち、常に防災の意識を養うことは大事なのは周知のところであります。そんな意味においても、地域との連携は必要不可欠と考えます。特に過疎地域にあっては、そのことはより重要性を増すように思います。どこも同じなのかも知れませんが、我が身延町、我が豊岡地区にあっては、住民すべてが少なからず、消防への意識を持っていることは確かです。そんな地域で消防活動ができることは、幸せなことなのかも知れません。様々な災害に対処でき、地域に信頼されることが地域との連携と一端であり、地域に根ざす消防団だということを肝に銘じ、「我が子、我が孫へ」、さらに邁進して行きたいと考えています。

優良賞　三重県　松阪市消防団　　田中　宏幸　さん

ボランティアに目覚める

消防団として活動を始め、早くも 2 年が過ぎようとしています。松阪市で生まれ育った私は大学の進学と同時に故郷を離れ、10 年間はアパート暮らしのため、地域活動には全く無関心でした。4 年前、私の身近で起こった東海大豪雨で私の知人の多くが被害を受けました。連絡を取りたくても電話が繋がらない。とにかく現地に向かおうと車を走らせました。しかし、現場付近の交通網は麻痺状態であり、たどり着くことさえできませんでした。そんな中、報道により被害の悲惨さを知った私は、友人のために何もしてやれなかった私、個人の力とは何と無力なものかと実感したことを鮮明に覚えています。この経験をした私は、現在松阪に戻り、家業を継いでいます。

そこで私自身、地域の役に立てる様なことはできないだろうかと考えていた時、消防団に入ってくれないかとの誘いを受けました。この消防団への誘いが地域活動には全く無関心であった私にとっての目覚めでした。この時、脳裏には私が子供の頃、母の「早う、起きな。火事や」との悲痛な叫び声で起こされ、窓からのぞくと、工場から赤い炎が吹き出していた情景が浮かびました。それは自宅から数十メートルという近所での火災でした。家から出ようとした私に、「消えるまで家の中に入っとんな。」との声。暗闇の中で赤々と燃える炎、けたたましく鳴り響くサイレンの音、それは、今でも忘れることのできない恐ろしい火災体験でありました。

今、私たち消防団員は、日頃から操法訓練や、消防水利の点検、機械器具の手入れなどを行っています。これらの訓練を通じ、いざという時には、地域の防災の要として、果たすべき役割は、非常に大きなものがあると実感しております。そして私たちは、消防団活動と平行して防災ボランティアという活動も開始しました。近い将来発生するであろう、東海地震、東南海・南海地震に備えての啓発を行う防災ボランティアネットワーク松阪の活動であります。それは地域住民と一緒にまちを歩き、もしもの時の為のタウンウォッチングや出前図上訓練、ワークショップなどで地域に密着した活動をしています。特に最近は自治会を中心に防災マップづくりなどで、自主防災の必要性を説き、災害に強いまちづくりを押し進めています。

現在松阪市消防団員として、また、防災ボランティアの一員として、あらゆる災害に備え、様々な訓練や、啓発活動を通じ、災害による被害の軽減と発災後の活動に備えるという、予防と対策の両面に渡り、精力的な活動を展開しております。そして他府県に起こった災害時には消防団員としての精神を発揮し、防災ボランティアの一員として、積極的に参加していきます。私はこの２つの防災に関わる活動を通じ、市民の皆さまの、安全と安心を守り、いざというときには、地域の人々から頼りにされる消防団員になっていきます。

優良賞　兵庫県　川西市消防団　　薮　まゆみ　さん

転んでも消防団員!!

私が川西の女性消防団に入団して、もう 3 年がたちます。自分ではもう 3 年と思っていても、周りの団員さんたちからすれば、私はまだまだひよっ子、経験不足のひよっ子です。でもそんなひよっ子の私でも、この 3 年間で活動してきた内容は他の団員さん誰にも負けないくらいの中身の濃い自信があります。中でも私にそう思わせてくれたのは、入って本当に間もない頃、半ば強制的に抜擢されたポンプ操法大会の選手です。私がどれだけ「私はほんまに運動音痴なんです。早く走ったり、動いたりなんて、絶対にできません。まして全国大会なんて」と主張しても、周りの恐い団員さんたちは誰も許してくれません。あれよあれよという間に、私はすっかり選手になってしまいました。ここまでくればやるしかない。優勝目指してやってやる。私は心に決めました。

ですが、実際に練習が始まってみると、そんなに生易しいものではありませんでした。私がこれでもかーというぐらい一所懸命走っているのに、「薮ぅ、おまえは何をとろとろ歩いとるんや。」素早い動きに自分でも「わー、すごいや、私ってすごい」と惚れ惚れしているのに、「亀でももっと早いわ」ときつい一言です。実際には一言なんてものではありません。私が少し動くたびに、「違う。とろい。遅い。」数か月たった頃には、半うつ病状態です。冗談ではありません。私は仕事が終わってから、どうしてこんなことをやっているのだろう。これが消防の何の役に立つのだろう。投げ出してやる、やめてやる。何度も思いました。周りのみんなは鬼にしか見えません。それでもその鬼たちも一旦練習が終わってしまえば、天使とはいきませんが、普通の人間に戻るのです。そして私に「よくがんばった。今日あれができたね。今度はこれをこうしてみようか。」アドバイスをくれたり、和気あいあいと雑談をしたりするのです。実際にこの一時がなければ、私はこの練習を乗り切れた自信がありません。

そして迎えた本番。本当に悔しいことに私がずるっと転んでしまって、優勝を逃してしまいました。優勝は言い過ぎかもしれません。それでも私は入賞を逃したと思っています。私が転んだせいで、一緒に練習してきたみんなや、一所懸命教えてくれたコーチに申し訳なくて、申し訳なくて、悔しくて、悲しくって、涙も止まりませんでした。それでも、もちろん私を責めることなく、「よう、がんばった。これでやっと落ち着けるな。帰ろ。次の活動をやろう。」そう優しく言葉を掛けてくれました。この時のこの言葉は上っ面なものであったとは思っていません。団員さんたちの心の底からの言葉であったと，私はこの時思いました。この時ほど私が選手になってよかった、消防団員になってよかったと思ったことはありません。

ポンプ操法大会だけではありません。川西の女性消防団員は他にも心肺蘇生法の講習や様々なイベントのお手伝い、年末の夜警の警戒、いろいろなことをやっています。こうした活動は私たち団員が一つになっていなければ、地域住民の皆さんになにもお伝えできないものだと思います。川西の女性消防分団にはそれがあります。実際に火事の現場に行って、火を消すことはないけれど、私たちは本当に縁の下の力持ちでがんばっています。いくらとろくても、鈍くさくても、私は立派な川西の誇れる消防団員とは言えませんが、それでもこの壇上で誇りを持って言います。「私は川西の女性消防団員です。転んでもチェリーファイヤーです。」

優良賞　鳥取県　溝口町消防団　松尾　陽一　さん

消防団活動を通じて得たこと

「鳥取県溝口町消防団ポンプ車操法を終了しました。」指揮者の合図で操法は終了。町の代表、県の代表として出場した緊張から解放された安堵感、そして何よりも、自分たちが積んできた練習の成果が十分発揮できたことに対しての充実感から、自然と涙が溢れてきました。溝口町消防団として始めて出場した第 18 回全国消防操法大会において、チーム一丸となり取り組んだ結果、準優勝という好成績を修めることができました。大会が終わり 1 年以上たった今でも、団員皆で抱き合って喜んだことを昨日のことのように思い出します。

私が消防団に入団したのは平成 13 年 4 月、震度 6 強の鳥取県西部地震が発生した 5 か月後でした。この地震で、私の住む溝口町も大きな被害を受けました。私は町の職員として被災箇所の見回りをしていたのですが、高齢化率が 30%を越える過疎の進んだ町で倒れた家具を直したり、落ちた屋根瓦を直すお年寄りの姿が今でも忘れられません。この様な状況の中、主要道路に流出した土砂の撤去から独居老人の方の個別支援まで地域に密着し、機動的に動く消防団の活動を目にして、私の中に小さな子供からお年寄りまでが安心して暮らせる町をつくる手助けがしたいという思いが生まれました。

入団して間もなく、消防団の中で、「いつまた大きな災害が発生するか分からない。もっと日頃から訓練を」という話になり、操法訓練が始まりました。私は操法がどの様なものか全く知らなかったのですが、「若い者に訓練が必要だ」と一番員を言い渡されました。消防団の先輩、また広域消防の方に指導を受け、出場した地区大会で第 2 位、県大会で第 3 位の結果を上げることができました。この結果に満足感もあったのですが、翌年行われる全国大会に出場するという明確な目標を立て、もう一度一から取り組み、毎日 3 時間を超える練習に励みました。厳しい練習の中、練習量はどこにも負けないという自信と、選手がみんな 20 代であり、若さと勢いはどこにも負けないという強い気持ちで大会に臨みました。地区大会を勝ち進み、県大会で優勝、念願の全国大会へ出場することができました。操法を通しての 2 年間で忍耐力、チームワークの大切さ、そして目標を持って努力すれば結果はついてくるということを学びました。この 2 年間の貴重な体験は、これからの消防団活動に大きな意味を持つと思います。

しかし、操法大会で良い成績を修めることだけが消防団活動ではありません。全国大会出場を通して学んだことを、平素の消防団活動に活かしていくことが大切だと考えます。全国大会を終えて間もなく、町内で車両火災が発生しました。これが私の消防団員として初めての火災現場でした。普段目にすることのない燃えさかる大きな炎を見て、慌てることなく自分の役割を的確に行われたのも、団員みんなで取り組んだ操法訓練のおかげです。消防団は小さな子供からお年寄りまでが、安心して暮らせる町をつくるために必要不可欠な存在です。町内を定期的に周回することで、住民と触れ合いながら防火意識の高揚を目指し、火災が起こらないことを目標に地道に活動を続けていきます。地震等の天災はいつ襲ってくるか分かりません。ことある時は震災での経験を生かし、落ち着いて冷静に対応して行きたいと思います。日頃から消防団員としての自覚と、防火、防災の意識をしっかりと持ち、住民の方から信頼される消防団員を目指していく決意です。

優良賞　佐賀県　佐賀市消防団　　中野　孝彦　さん

私を変えたあの日の火災

大学卒業後、私は一度消防団への入団を断りました。しかし、その後も「地域住民の生命と財産を守るために協力してくれないか」と消防団員の熱心な誘いをうけ、仕方ないという気持ちで入団しました。入団後は火災現場での消火活動や消防団行事も経験し、3 年目を向えた平成 10 年 2 月に、私が消防団活動に対し意識を変える火災が発生しました。

職場の前をけたたましく鳴らす消防車が走り去り、直ぐに電話で現場を確認すると職場の近くだったので、仕事中でしたが現場へ直行しました。到着したときは既に一軒の民家が炎に包まれており、今にも隣の民家へ延焼する勢いでした。私は背広姿だったので消火活動を一瞬ためらいましたが、少人数で到着していた管轄分団が放水準備をしていたので、私も自然と体が動き出しました。火の勢いも幾分治まった頃、逃げ遅れたおばあちゃんが二人の消防署員に抱きかかえられ私の前を通り過ぎました。「ばあちゃん、死んだいかんよ」と思いながらもホースを握り続けました。隣の民家への延焼も防ぐことができ、消火活動を終えた時に、救出されたおばあちゃんが亡くなられたことを聞きました。火災は鎮火したものの心の中はくすぶっていて、何とも言えない気持ちになりました。その時始めて、「地域住民の生命と財産を守る」という言葉の意味を痛切に感じ、帰りの車の中で「がんばろう」という気持ちに変わりました。

あの火災以来 6 年が経ち、消防団員のサラリーマン化や高年齢化で若い団員が減少することは間違いないと思います。私の所属する分団では、新入団員の勧誘を部長、班長が行くのではなく、同世代の団員が行くことにより、親近感がわき、20 代の新入団員を増やすことができました。今では私も先輩団員と後輩団員のパイプ役をする立場にいます。

しかし、私には一つ懸念があります。火災は一分、いや一秒でも早く、消火活動をしなくてはなりません。昼間に火災が発生した場合、私の職場には同じ団員や OB が多く、理解があるため出動できますが、他のサラリーマン団員は難しく、ほとんどは農業や自営業者の団員で行わなければなりません。今後も、サラリーマン団員が増えることは間違いないと思います。だから、職場にもっと消防団をアピールしていくことが必要ではないでしょうか。

最後になりますが、私には 2 歳になる息子がおり、大きくなったら親子二代で地域住民の生命と財産を守るためにがんばっていきたいと思います。そして消防団活動に協力してくれる職場と家族に感謝しています。ありがとう。

■　平成 15 年度全国消防団員意見発表会　審査員　■

（敬称略、五十音順）

◇　財団法人市民防災研究所　理事　　池上三喜子

◇　全国消防長会　副会長　（福岡市消防局長）　小田　哲也

◇　財団法人日本消防協会　常務理事　　瀧澤　忠徳

◇　日本商工会議所　理事　　坪田　秀治

◇　語り部・かたりすと・キャスター　　平野　啓子

◇　消防庁　次長　　東尾　　正（審査員長）

審査員長である消防庁幹部 1 名のほか、学識経験者 3 名、消防関係者 2 名の計 6 名の審査員が、「内容」「意見性」「発表力」の項目（各項目 10 点満点、合計 30 点満点）について、総合的に評価した。また、発表の制限時間は 5 分で、制限時間を超過した場合は減点した。

平成 15 年度消防団活動・支援事例報告会

（敬称略）

◆　栃木県　黒磯市消防団

「大規模火災時における消防団活動」

【発表者】副団長　　佐藤　一則

◆　神奈川県　横須賀市消防団

「平常時の消防団活動の一層の充実と団員確保」

【発表者】音楽隊員　　家藤　なつき・後藤　博美

◆　福岡県　医療法人医和基会（いわきかい）

「ボランティアとしての消防団活動に理解を示す事業所」

【発表者】本部事務室長　　二文字　正勝

◆　栃木県　黒磯市消防団　　「大規模火災時における消防団活動」

皆様こんにちは。大規模工場火災における消防団活動について、栃木県黒磯市消防団の活動を紹介させていただきます。

まず始めに黒磯市を紹介いたします。黒磯市は関東地方の最北部に位置して、首都東京から 150 キロメートル、新幹線で約 1 時間の那須御用邸のある日光国立公園、那須温泉の玄関口にあり、北部に那須連山、東部を毎年多くのあゆ釣りファンで賑わっております清流那珂川が流れており、南西部には鎌倉時代の初代将軍であります源頼朝が大々的に巻狩りを行ったといわれています、穀草地帯の関東平野が壮大に広がっており、面積 343 平方キロメートル、東西約 32 キロメートル、南北に 28 キロメートルの風光明媚でさわやかな高原都市であります。

続きまして、我々黒磯市消防団を紹介させていただきます。黒磯市消防団は昭和 23 年、自治体消防制度発足と同時に結成されて周辺町村の合併、自治体の統合により、現在は 1 本部 4 分団、43 個分団で構成されており、隊員総数が 691 名です。最近の活動実績につきましては、平成 6 年度、12 年度に全国消防操法大会に出場して入賞しております。また災害活動においては、平成 10 年 8 月末に、那須地方を襲いまして 5 日間で総降雨量が 1,254 ミリという未曽有の豪雨により、河川の氾濫、家屋や田畑の流出、床上等、甚大な被害をもたらしております。その時被災者の救出、避難誘導及び避難者の輸送、家財の搬出、河川の決壊等による約 3 万俵の土のうを積み、そして自衛隊の支援など多岐にわたり、災害発生から行方不明者の捜索まで 7 日間に対して団員の延べ 3,880 人が広範囲にわたり不眠不休で活動しています。

表題にある黒磯消防団の活動支援事例でありますが、平成 15 年 9 月 8 日に発生した株式会社ブリヂストン栃木工場、バンバリー棟火災についてです。バンバリー棟というのは、鉄筋コンクリート 1 部鉄骨造り 3 階建であり、建築面積が約 1 万 8,000 平方メートル、延べ床面積が 4 万 1,000 平方メートルあって、自動車タイヤの原料である生ゴム、カーボン及び両方を練り込み板状に加工するタイヤ製造の最初の行程棟のことであります。当時の出場車両は消防車 104 台、消防団 72 台、航空隊 3 台で合計 179 台、出動延べ人員は消防署 941 人、消防団 1,593 人の合計 2,534 人でした。

・　消防全体の活動状況

消防隊の活動状況においては、8 日正午、携帯電話で工場より出火・火災の 119 番通報受信後、消防車両により出動しております。担当分団は、同時刻 4 分、緊急伝達システムサイレンス吹鳴により出動しています。この時既に、大量の黒煙が立ち上がっていて、大規模火災になる様相を呈していました。同時刻 9 分、現地既存本部が設置されまして、現場北側の住民に自主避難の要請がなされております。13 時 20 分、黒磯市大規模火災災害対策本部が設置され、付近の住民 1,700 世帯、合計 5,000 人に避難指示が出され、280 人が避難しています。13 時 47 分、黒磯市消防団全団員を招集して、続きまして隣接する消防団へも出動の要請を行っております。16 時に県内各所の消防本部に応援出動を要請して、我々消防団員は水利の確保のために那須疎水、これは那須側から第一に那珂川から送っている疎水は何本もありますが、それを熊川の方に送水の要請をかけています。熊川というのは、近くを流れている川ですが、火災現場付近は伏流水で通常は水がありませんので、疎水の方から切り替えて流していただくよう要請をかけています。

消火剤の放水、航空隊、屈折はしご車等による消火活動を続けております。しかし火勢は一向に衰えることなく、バンバリー棟を順次舐め尽くしていっております。また、西側に野積みされていた出荷待ちのタイヤが十数万本あったが、17 万本が焼失しています。そして隣接されているタイヤ原料のカーボンタンク、また機器に使うオイル棟の油脂類の貯蔵タンクが隣接して設置されていましたが、必死の消火活動により類焼を逃れています。その後も消防団が送水を昼夜途切れることなく消火活動を続けた結果、一人の犠牲者も負傷者も出すことなく、9 月 10 日二昼夜にもなって燃え続けたものが 10 時 30 分鎮火し、13 時 25 分現場指揮本部を解散しています。

・　消防団の活動状況

我々消防団の活動状況ですが、発生当時いち早く 12 時 4 分に担当分団の地区にサイレン吹鳴により、消防団の始動を要請し、消火活動を開始しています。なお 13 時 24 分、水利確保のため残りの 3 分団も始動要請により出動し、現場指揮本部より黒磯市消防団全団員の出動要請により、全団員が

出動し水利確保を重点に活動しております。自然水利、防火水槽、消火栓から前線各消防隊数十隊入っていましたが、10 日の 10 時 30 分に鎮火するまで中継送水を行っていて、その間、各部の状況により長期戦に成ることが予想されていたので、順次交代で仮眠を取り、送水が途切れることのないようにということで、実際送水が途切れることはありませんでした。

当初の重点水利であった工場内の防火水槽が地形的に建物よりかなり低いところにあって、雨水槽が流れるような地形にあったので、大量の水を送水し、それとともに、建物内に配備されていたタイヤの原料、カーボンや生ゴムなどが一緒に防火水槽に流入してしまい、それらが吸管、ポンプに詰まって送水できなくなるという危機に見舞われたのですが、地元の建設会社の強力吸引車を要請し、それらを吸引除去して、繰り返し送水することができました。また、応援に駆けつけていただいた東京消防庁の大容量消防ポンプ、スーパーポンパーは、当初近くの小学校のプールを水利としていました。そのプールの水は消火栓から吸水をしていた水であったので、地元の家庭に送っているラインと同じであったことから、浄水場の配水能力を越えそうだということになりました。そこで、家庭の生活水を最優先するためにプールからの吸水を止めて、熊川からの送水に切り替えるということにしました。その時も消防隊が土のうを積み、水中ポンプを設置する場所を確保するために、かなりの深さがないと設置できなかったことから、重機で掘って、間髪を入れず設置し、途切れることなく円滑に切り替えて送水し続けることができました。また、河川の変化によって、消防隊の最前線の放水位置を変更、数百本のホースが順次入り乱れて、ラインを形成されていたので、その時切り替えをどうするかということに苦労したが、新たに１本ラインを作ってそれらを順次切り替えて、10 日の 10 時 30 分に鎮火するまで途中途切れることなく送水することができました。

黒磯市にはブリヂストンの工場が 3 つあり、今回の火災を教訓にして残りの 2 つのうち、市街地に位置している一つの工場で企業と消防署、また、我々消防団が合同で消防訓練を実施する計画をしています。今後も関係機関と連携を図って、地域住民の皆様方の生命、身体、財産、安全確保のために研鑽を重ねて資質の向上を図ってまいりたいと思います。

つたない報告ではございましたが、御静聴ありがとうございました。

・　質疑応答

＜質問＞　東京で消防団関係の仕事をしている者ですが、消防団員確保のために全国の市町村長が頭をいためているという話をよく聞きます。参考までに黒磯市ではどのような消防団員さんの確保のための対策などを取られているか、教えていただけないでしょうか。

＜回答＞　消防団活動の PR の一環として、平成 8 年度より、当初は毎年、その後は平成 10 年度から隔年ごとに地元の企業又は産地直売会等の協力をいただき、模擬店の出店、また、いろいろな消防グッズ、消火器、テレビ塔がもれなく当たる抽選会、そして特産品であるコシヒカリや卵の無料配布、お子さんが喜んでいただけるような仮説のプールを作って、ますのつかみ取り、また、消防車両の展示、起震車、梯子車の体験試乗、それらの内容とした消防祭りを開催して、地域の皆さんに広くアピールしています。将来を担うであろう小さなお子さん、多くの人で賑わっていて、そのような PR 活動を行い、少しずつ浸透してきているところです。

◆　神奈川県　横須賀市消防団　「平常時の消防団活動の一層の充実と団員確保」

皆様こんにちは、私たち消防団音楽隊が音楽を通じての防火、防災意識の啓発普及活動の事例を報告いたします。まず、横須賀市の地域特性ですが、私が申し上げるより、横須賀市の PR を含めまして画面での紹介とさせていただきます。では、御覧ください。

（ビデオ上映）

このような「国際海の手文化都市」横須賀で、消防団音楽隊は平成 3 年 5 月 1 日に発足されました。結成までの経緯ですが、横須賀市消防団では、平成 2 年 7 月、消防団活性化の一つの施策として、女性消防団員を採用し、消防団による広報を充実させるため消防団音楽隊を結成させようという気運が高まりました。平成 2 年 10 月、消防団の重要事項について審議する横須賀市消防委員会において、消防団の活性化を図る一環として、女性消防団員を採用して音楽隊を作ることが望ましいと決定され、平成 2 年 11 月、市長に提言されました。これを受けて平成 3 年の予算に音楽隊関係経費が盛り込まれ、市議会の議決を得て結成することになり、平成 3 年 5 月 1 日に横須賀市消防団音楽隊が誕生しました。結成当時、女性消防団員を主体とした音楽隊は、全国で初めてでありました。女性の採用も横須賀市が神奈川県内で初めてであります。この音楽隊は音楽を通じて防火、防災意識の啓発普及活動をするため、市民に広く消防団の存在を PR するため、消防団の活性化を図るため、以上の目的から消防の行事から横須賀市主催の行事に出場し、音楽を通じて市民とふれあい、消防の認識を高めるため、日夜努力しております。

・　消防団音楽隊の組織と活動

次に横須賀市消防団機構図を御覧ください。音楽隊は消防団本部の直轄として位置し、消防団本部副団長が音楽隊の責任者であります。音楽隊は 45 人編制で、内訳として、隊長と副隊長が 1 人ずつ、班長 3 人、隊員 40 人となっています。また平成 15 年 4 月 1 日現在の隊員をパート別に見ると、木管楽器 12 人、金管楽器 19 人、打楽器 4 人で、女性隊員は 29 人になります。

次に音楽隊が出場した主な行事を紹介いたします。昨年はペリー来航 150 周年の節目にあたり、一年を通

じて開国祭関連イベントが市内各地で開催されました。毎年 4 月上旬に開催される日米親善横須賀さくら祭りでは、パレードに出場しております。このパレードは米海軍横須賀基地内で行われ、周りには見事なさくら並木が見られ、音楽隊の参加は日米親善にも貢献しております。5 月上旬の咸臨丸フェスティバルでは、1860 年、日本船初の太平洋横断を果たした皆さん御存知の咸臨丸出航の地、浦賀でパレードを行いました。6 月には衣笠地区の菖蒲園祭りでミニコンサートを開催いたしました。約 400 種類の 14 万株の花菖蒲が咲き誇る中での演奏には、市民の方々からも好評を得ました。また 6 月 23 日には NHK 首都圏ネットワーク神奈川スペシャルにおいて、8 月の開国祭に向けて盛り上がる横須賀からの生中継に出演し、開国に関連する曲、アルプス一万尺、トミーポルカを演奏し PR にとても貢献しました。7 月上旬には久里浜地区のペリー上陸記念地において、日米親善ペリー祭パレードに参加しましたが、150 年前に黒船 4 隻を率い米海軍提督ペリーが上陸をし、我が国に開国をもたらした久里浜でのパレードでありました。梅雨明け間もない 8 月には横須賀開国祭でのマーチングプレビュー及び海岸通を中心とした開国パレードに出場し、中央大通りから海岸通までの開国パレードにおいては、県内外から全国トップクラスのマーチングバンドやバトントワリングが参加をし、その中でパレードの先頭を務め、メインイベントの盛り上げに一役買いました。その開国祭ですが、8 月 1 日からの 3 日間で延べ 100 万人を越える観客が横須賀に足を運んだ盛大なイベントとなりました。そして 9 月には、多くの皆さまに更に消防団を理解していただくために、横須賀市消防団音楽隊第 4 回定期演奏会を開催し、観客の皆さまに演奏を楽しんでいただきました。特に音楽に動きを付け、見る楽しさを加えたステージ上でのドリル演奏は大変な好評を博しました。この演奏会は市内の老人ホームや福祉施設の方々を多数招待したこともあり、皆さまに大変喜ばれました。11 月 20 日には東京ドームでの自治体消防 55 周年記念大会式典において、全国の女性消防団員の音楽隊を代表し、山形県山形市と岐阜県中津川市、富山県福光町の各消防団音楽隊女性隊員と合同でチームを結成し、天覧演技を披露しました。各地との意見交流も行え、消防団の活性化にとても貢献いたしました。年が明け 1 月には恒例の消防出初め式に参加し、消防職員からなるフラッグ隊との合同チーム「ヨコスカ・ファイアー・ドリームズ」としてオープニングドリルを行いました。その映像を一部ですが御紹介いたしますので、どうぞ御覧ください。

（ビデオ上映）

いかがだったでしょうか。これからもわたくしたち横須賀市消防団音楽隊はこの表彰を糧としてさらに市民の皆さまに愛され、親しまれる音楽隊を目指して日夜訓練に励みたいと思います。これで消防団地域活動表彰の事例報告を終了させていただきます。皆さま御静聴ありがとうございました。

・　質疑応答

＜質問＞　消防局で消防団事務を担当しています。様々な内容の御活動、大変興味を持って聞かせていただきました。さて、消防団員である皆様はそれぞれ仕事、家事とかになさっている傍らでの活動ということになろうかと思いますが、消防団活動実施して行く上での苦労話とかございましたらお聞かせいただけませんか。

＜回答＞　そうですね、やはり一般団員の方々も同じだと思いますが、団活動との両立にあると思います。また、団活動を続けていくにあたって団活動を支援してくださる職場の方ですとか、家庭の理解がないと活動も続けていけませんので、私たちも感謝しながら行っております。

◆　福岡県　医療法人医和基会（いわきかい）

「ボランティアとしての消防団活動に理解を示す事業所」

本日は消防団地域活動表彰の栄誉に授かりまして、誠にありがとうございます。私たちの法人は医療保険福祉の担い手として、地域社会への医療福祉のサービスの貢献を目的に積極的に推進しています。その一つとしての消防団活動がこのように評価されましたことを、私共にとりましては大変深い喜びとするところであります。さて、私たちの医療法人と消防機関は救急活動や防災活動といずれも深い関わりを持ち、切っても切れない関係であると思っています。本日、当法人の沿革を始め初期の屋内消火栓総合大会や地域との防災協定、各種福祉活動等、また事業所の団員に対する支援体制とを御紹介させていただきます。

まず始めに当法人の沿革から御紹介させていただきます。

（ビデオ上映）

今御紹介したように、私たちは昭和 27 年、前身の後藤医院から数え 50 年が経過しました。昭和 59 年に病院組織になり、老人保健施設、特別養護老人ホーム、有床診療所、ケアーハウス、身体障害者小規模授産施設、グループホーム、シニアハウス、生活支援ハウスと現在 9 つの施設の運営をグループで行っています。いずれの施設も高齢者や障害を持っている方が数多く入院・入所なさっています。当法人のグループですが、医療法人医和基会と福祉施設を担当する社会福祉法人いわき福祉会と別れております。一日最大で入院・入所している利用者が 515 人、医療機関に通院、デイサービス等の通所なさる方が一日平均 500 人、利用いただいております。総職員数は医和基会が非常勤を含めると 398 人、いわき福祉会が 130 人と合計 528 人が勤務しています。この多くのスタッフは看護士、介護士という女性ばかり職場です。男性は医師を始め医療スタッフに一部いる程度となっています。医和基福祉会を例に取ると 130 人中 11 人が男性という大変少ない状況で緊急時の対応、災害時の対応にはもちろん消防機関、地域の皆様との御協力と御支援がなければと思うとゾッといたします。そして病院ですが、救急車搬入件数が平成 15 年の統計を取ったところ、708 件入っています。これは毎月 60 台平均で急患が搬入されているという数字です。

・　事業所と消防防災との関係

初期の活動として、女性消防隊員の活動を紹介いたします。看護士や事務職員等で構成された自衛消防隊員は早くから屋内消火栓操法等に参加しており、消防署の指導により 7 回出場して 3 回優勝を経験することができました。しかしながら現在各施設にスプリンクラー導入が進み、この屋内消火栓操法大会もなくなって、現在大変寂しい思いをしているところです。

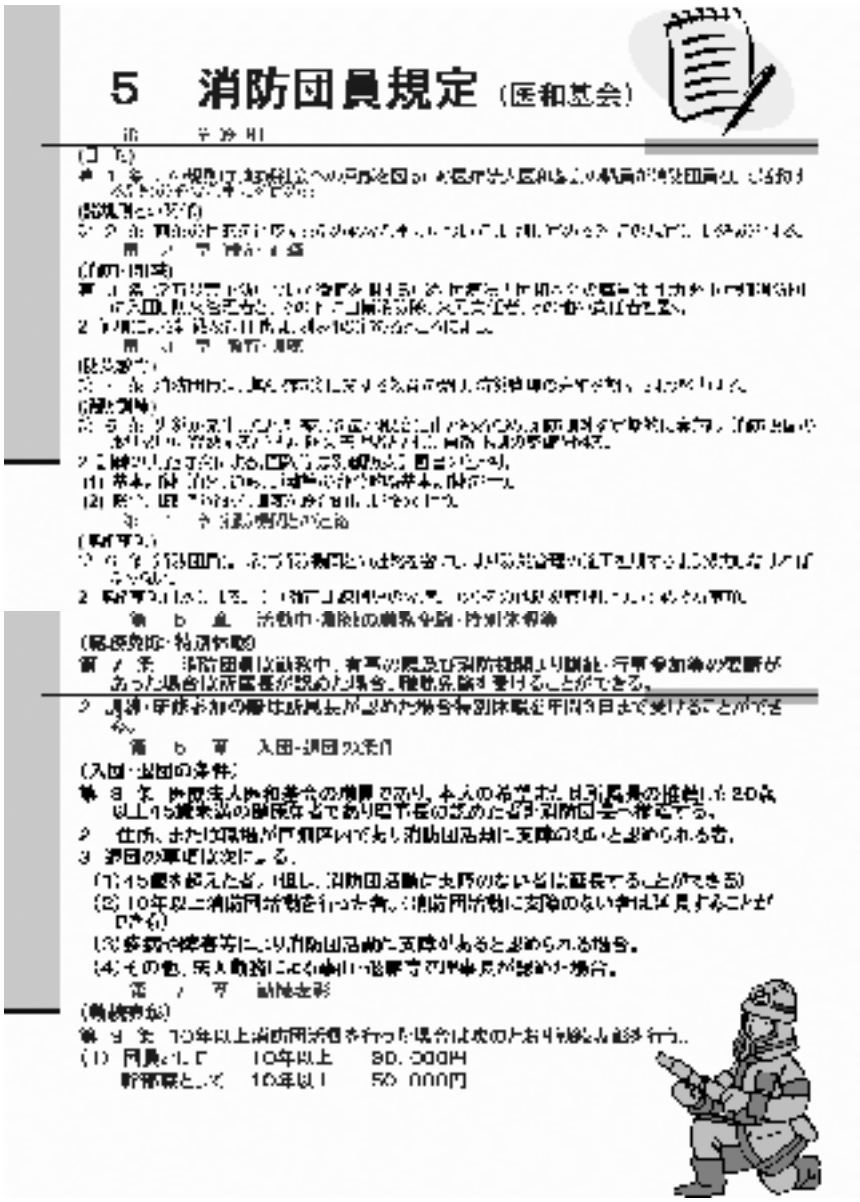
次に病院や福祉施設の防災活動に多大なる御支援をいただいている、地域との防災相互応援協定の御紹介をいたします。高齢者施設の平均年齢はおよそ 88 歳と非常に高くなっています。一人で歩ける方は数人程度であり、もし大きな災害が起こった時、地域の皆さまの御協力なしでは尊い人命を全て守れるかどうかも分かりません。こういう状況を、消防署の皆様の御指導で地域防災相互応援協定を各施設、市民防災会の皆様と結んでいただいております。現在も年に 2 回、定期的相互協力のもとでの訓練等を行っています。このような活動以外に、我々の施設を利用するような地域に対して開かれた施設としての支援の方も行っております。私共の事業経営の基本はやはり安全の確保であり、事故の未然予防、防止であり、そして法律を守っていくこと、サービスの質を上げていくことです。そのためには地域と一体となった訓練や緊急時の対応、蘇生訓練が欠かせないものとなっていて、年に 2 回、地域の方を招いて御指導いただいております。そして、関連している特別養護老人ホームも戸畑区で初めて防災相互応援協定の方も結んでいます。

各種統計ですが、北九州市の人口は、100 万を若干超えており、面積は 485 平方キロメートル、その中で戸畑区は人口 6 万 4,000 と非常に少なく、面積も 16 キロメートルで北九州の中では小さなまちです。北九州市消防団は 8 消防団 69 分団 30 支部があります。戸畑では 1 団 5 分団、定員が 140 人に対し現在 135 人、充足率は 96.4%で、中で今現在医和基会の職員は 13 人が在籍しています。最大在籍は 16 人在籍した時がありました。

続きまして、北九州方式と呼ばれる地域ネットワークの存在を御紹介いたします。これは市レベル、区レベル、地域、小学校区レベルがあり、市民を支える総合的な支援体制があります。行政をはじめとして消防や警察に、私たち医療福祉施設は、その特性を生かして、かかりつけ医師制度や退院前関与、緊急入院、入所システムで高齢者・障害者から子どもまでを支える一員として協力しています。また、消防団による地域防災支援活動や福祉ボランティア活動、女性団員によるいきいき安心訪問、施設慰問など積極的に参加しています。

・　消防団員に関する規定

次に、当法人の消防団員に関する規定を御紹介いたします。医和基会には事業所独自の消防団規則があり、消防団活動をする職員に内部規定を設けています。もちろん防災に関する深い知識を有する必要性で、消防機関の指導を受けながら施設を守ることが必要です。その中で地域の有事の際に、また、訓練行事参加は勤務中も消防団員が活動しやすいように、職務の免除や、特別休暇等を定めています。第 6 条では入団条件として、入団は個人の自由ですが、当法人は少ない男性スタッフから概ね 45 歳までの健康な方を積極的に消防団員に推薦しております。当然定員がございますので、次に控える男性を現在養成中です。第 9 条には、わずかながら勤続表彰等を設けています。


5　消防団員規定（医和基会）

・　消防団員の平常時の活動

次に消防団員の福祉活動を御紹介いたします。平成 15 年、私も消防団員として今年で 10 年目を迎えておりますが、私の所属する戸畑消防団第 2 分団で昨年の火災の発生件数は 4 件でした。災害の多い小倉北の第 2 分団にお訪ねしたところ、60 件を越えていました。それくらい北九州の中でも地域差があり、我々戸畑消防団としては、特に福祉活動に力を入れた動きをして地域の皆さまに御理解をいただけないかという取組みを多数していますので御紹介いたします。

まず、その一つに誰もが気軽に参加できる環境の改善や、資源リサイクルに役立てることを目的とした空き缶のプルタブを収集し、その売却益で車椅子を福祉施設に寄贈する運動を行っています。車椅子 1 台の値段は 5 万円程度で、アルミの重さは 700 キログラムに相当します。これはプルタブ

150 万個という数字で、ドラム缶にしますと 7 本以上が必要になります。（平成 14 年は 1 台、15 年は 2 台の車椅子を北九州市社会福祉協議会に寄贈しました。）その他には自分の趣味や特技等をいかした高齢者のちょっとした大工仕事の手伝いをするおまかせ腕自慢、ボランティア活動等、積極的に取り組んでいます。これは消防団員の腕自慢ボランティアとして、家庭のちょっとした大工仕事や手伝い、電球の取替、また、水道のパッキン、ちょっとした水漏れぐらいであれば我々でも簡単に直すことができるということで参加しております。さらに、荷物の移動や一人暮らしの高齢者、腰の曲がった女性のお宅に訪問したときのちょっとした移動、引っ越しではないですが、このような活動もしています。たまたま包丁研ぎを依頼された際は、素人なのですが、なんとかお役に立てたのではないかなと思って活動しています。

続きまして女性消防団員によるいきいき安心訪問、これも女性独自の取組みでありますが、一人暮らし世帯を訪問することによりまして、家庭の環境のチェックや防災の知識等を教えます。そして安否の確認等をやりながら、先ほど御紹介しました北九州市ネットワークの方に連絡をします。

最後になりましたが、私たちは地域の皆さまに愛され、信頼される医療機関福祉施設として 24 時間いつでも安心して、質の高いサービスを受けていただけますように、消防署、消防団及び関係機関等の連携を更に強化してまいります。これからも戸畑消防団員の一員として地域防災活動、福祉ボランティア活動のリーダー的存在を担えるように努力してまいります。御静聴ありがとうございました。

平成 15 年度消防団地域活動表彰

1　消防団表彰

都道府県	受賞消防団又は分団	都道府県	受賞消防団又は分団
青 森 県	むつ市消防団	大 阪 府	松原市消防団
秋 田 県	仙南村消防団	奈 良 県	高取町消防団
山 形 県	舟形町消防団	和歌山県	有田市消防団
福 島 県	田島町消防団	山 口 県	周南市消防団第四方面隊中央第十四分団
埼 玉 県	庄和町消防団	徳 島 県	三好町消防団
千 葉 県	船橋市消防団	香 川 県	高松市消防団仏生山分団
東 京 都	池袋消防団	愛 媛 県	松山市消防団
神奈川県	横須賀市消防団	高 知 県	伊野町消防団枝川分団
長 野 県	穂高町消防団	宮 崎 県	都城市消防団
岐 阜 県	谷汲村消防団	鹿児島県	屋久町消防団
静 岡 県	磐田市消防団	沖 縄 県	那覇市消防団第三分団
愛 知 県	名古屋市那古野消防団		

2　事業所表彰

都道府県	受賞事業所	都道府県	受賞事業所
北 海 道	道央農業協同組合北広島支所	京 都 府	日東精工株式会社
栃 木 県	株式会社ヨックモック栗野	島 根 県	島根中井工業株式会社
群 馬 県	沖電気工業株式会社金融ソリューションカンパニー	岡 山 県	三井造船株式会社玉野事業所
新 潟 県	電気化学工業株式会社青海工場	福 岡 県	医療法人医和基会
福 井 県	福井鋲螺株式会社	熊 本 県	三栄開発株式会社
滋 賀 県	三菱樹脂株式会社長浜工場	大 分 県	日本調理機株式会社大分工場

【事例の見方】

消防団については管轄区域、消防分団については当該分団の所属する消防団の管轄区域、事業所については当該事業所の所在する市町村の人口及び面積を、平成 12 年国勢調査より引用し、記載し、平成 12 年国勢調査以降に市町村合併があった場合は、合算した人口及び面積を記載した。なお、受賞消防団に関する記載（住所等）は、発表会当時（16 年２月）のものである。

また、その他の内容については、各都道府県から受賞団体として推薦された際の添付資料より引用し、記載した。

式　　辞

消防庁長官　　林　省吾

本日ここに、来賓各位の御臨席のもと、平成 15 年度全国消防団員意見発表会・消防団地域活動表彰式を挙行できますことは、誠に喜ばしいことであります。

我が国の消防は、昭和 23 年に自治体消防として発足して以来、関係各位のたゆまぬ御努力の積重ねにより、着実な発展を遂げ、国民の安全確保に大きな役割を果たしてまいりました。

しかしながら、昨年も、全国各地で自然災害や企業災害が相次いで発生し、また、大規模地震の発生が懸念され、国民の生活に大きな不安を与えております。

こうした中、阪神・淡路大震災を契機に、地域社会に密着し、地域住民の期待に応えて対応できる消防団の力は、高く評価され、信頼を得ております。

消防庁といたしましては、消防団活動の一層の活性化のため、各種の財政上の支援措置の充実強化に併せ、常日頃、地域防災力の向上に特に寄与されている消防団や、消防団活動を特に支援されている事業所を表彰するとともに、優秀な意見を発表された中堅・若手・女性の消防団員を表彰しているところであります。

本日受賞されます消防団や事業所の皆様方が、地域の消防防災力の向上などに日夜御尽力いただいていることに、心から敬意を表し、感謝申し上げます。

皆様方におかれましては、今回の受賞を契機に、今後も地域社会の安全と、地域住民の安全・安心の確保のため、一層の御理解と御尽力を賜りますよう期待しております。

終わりに、受賞されます皆様方のますますの御健勝を祈念申し上げますとともに、本日御多忙中にもかかわらず御臨席を賜りました御来賓の皆様方に対し、厚く御礼を申し上げまして、式辞といたします。

【消防団表彰】

消防団定期観閲式の挙行

■　青森県　むつ市消防団　■

人口：4 万 9,341 人　面積：245.89km^2
団員：485 人（うち女性 0 人）
所在地：むつ市小川町 2 丁目 14 番 1 号

←　↓　むつ市消防団定期観閲式

【活動内容】
昭和 36 年より、毎年 5 月第２日曜日に定期観閲式を挙行して、消防団員の士気高揚に貢献している。また、同日に行われる表彰式では、団員表彰はもとより、消防協力に対する市民表彰も行われ、広く地域住民の関心を集め、消防への認識の向上及び消防・防災思想の普及啓発に尽力している。

住民の防火意識の啓発活動

■　秋田県　仙南村消防団　■

人口：8,381 人　面積：41.16km^2
団員：141 人（うち女性 0 人）
所在地：仙北郡仙南村飯詰北中島 35 番 1
←防火座談会の様子
↓　一般家庭防火診断の様子

【活動内容】
年 1 回開催の消防訓練大会や年 2 回開催の独居並びに高齢者世帯への防火診断、随時開催の防火座談会や初期消火訓練講習会、普通救急救命講習会だけでなく、月 1 回の村内防火広報巡回パトロールや一般家庭防火診断などを通して、定期的に地域と密着した火災予防普及啓発活動を展開している。

積極的な広報活動等で防火啓発と消防団 PR

■　山形県　舟形町消防団　■

人口：6,996 人　面積：119.03km^2
団員：443 人（うち女性 19 人）
所在地：最上郡舟形町舟形 263
←火の元検査の様子
↓初期消火器訓練の様子

【活動内容】
定期的に消防団活動や火災予防広報を兼ねた地域密着の広報誌「しょうぼう」を発行し、地域に親しまれる消防団を目指している。また、ポンプ積載車による火災予防運動期間中の防火広報や各家庭を廻っての火の元検査、年 2 回の初期消火器訓練や町の防災無線による年間を通じて防火広報など、住民の防火意識の高揚を促している。

高齢者や主婦への防災安全指導

■　福島県　田島町消防団　■

人口：1 万 3,747 人　面積：350.34km^2
団員：495 人（うち女性 0 人）
所在地：南会津郡田島町大字田島字後原甲 3531-1

←　　↓ 住民に消火栓の使用方法を指導

【活動内容】
高齢者世帯に対し訪問活動を実施し、火の取扱い、特に冬期間の暖房器具の安全な使用について定期的に指導を行っている。また、昼間は消防団員が仕事のためにいなくなってしまうことから、村内に残っている高齢者や主婦だけでも初期消火ができるようにと、消火栓の使用訓練を実施している。

【消防団表彰】

１日消防団長の任命等火災予防の啓蒙を推進

■　埼玉県　庄和町消防団　■

人口：3 万 7,549 人　面積：28.15km^2
団員：88 人（うち女性 11 人）
所在地：北葛飾郡庄和町大字金崎 914
←火災予防を訴える１日消防団長
↓消防団員と１日消防団長

【活動内容】
町内の小学校から男女各 1 名を「1 日消防団長」に任命し、消防団員と一緒に火災予防啓発品の配布等の広報活動などを実施して、町民に対して消防団の PR 効果を挙げている。また、火災予防の啓蒙啓発を図るために、消防まつりや歳末特別警戒を実施し、広く町民に火災予防を呼びかけている。

防火教室の実施で火災予防の啓発

■千葉県　船橋市消防団　■

人口：55 万 6,986 人　面積：85.72km^2
団員：673 人（うち女性 14 人）
所在地：船橋市湊町２－６－１０

←　　↓ 防火教室の様子

【活動内容】
平成 15 年度から、消防団員による防火教室を開催している。内容は、小学校 4 年生の社会科授業の「暮らしを守る」という授業の中で先生に代わり、消防団員が講師となって実施するもので、団員が企画立案し、学校長と協議の上、決定する。放水体験や団員の防火講話など、火災予防思想の啓発が図れる有益な授業となっている。

防火防災フェア等を通じた地域住民の防災力の向上

■　東京都　池袋消防団　■

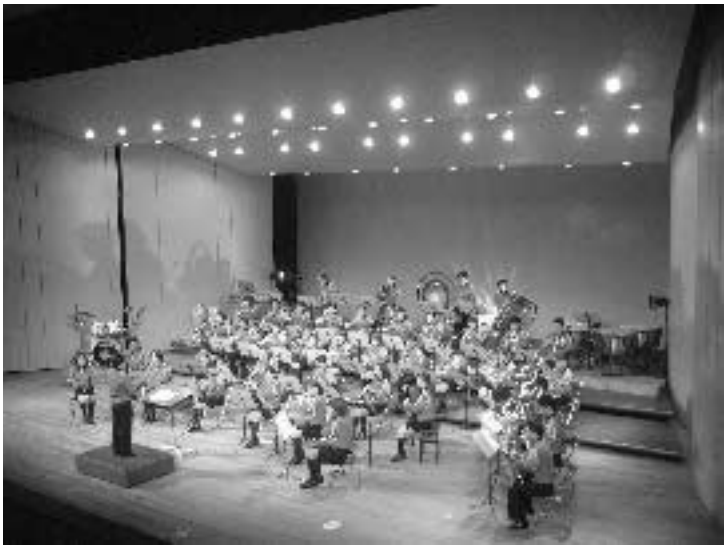
人口：11 万 9,096 人　面積：6.21km^2
団員：228 人（うち女性 34 人）
所在地：豊島区西池袋 2 丁目 37 番 8 号
←防火防災フェア
↓ 応急手当訓練の普及活動

【活動内容】
防火防災フェアや災害時要援護者を対象とした教育で地域住民の防災行動力の向上や応急救護技術の向上に貢献するだけでなく、各町会からの要請に基づき、随時、初期消火等の防災指導や応急手当訓練の指導にあたっている。また、まちづくり祭りや地域を明るくする運動等で、広く消防団 PR や防火防災の啓発に努めている。

音楽を通じた防火・防災意識の啓発普及活動

■　神奈川県　横須賀市消防団　■

人口：43 万 5,412 人　面積：100.67km^2
団員：887 人（うち女性 34 人）
所在地：横須賀市小川町 11
← 開国祭のパレード
↓ 定期演奏会



【活動内容】
防火・防災思想の普及啓蒙及び、ボランティアで地域の安全を守る消防団の姿を、音楽を通じて広く市民に PR するため、消防の諸行事をはじめとする横須賀市主催の様々なイベントに出場している。平成 12 年度からは毎年 1 回音楽隊定期演奏会を市内の社会福祉施設の入所者等を招待して実施し、市民から好評を得ている。

【消防団表彰】

地域住民への予防消防活動

■　長野県　穂高町消防団　■

人口：3 万 966 人　面積：145.42km^2
団員：269 人（うち女性 0 人）
所在地：南安曇郡穂高町大字穂高 6658

← ↓消火器点検の様子

【活動内容】
春・秋の全国火災予防運動期間中、地域に根ざした防火指導や家庭の消火器の点検などを行い、地域住民と共に予防消防に努めている。また、毎月 1 日及び 15 日を消防の日と定めている。管轄区域内を消防車両による巡視及び広報を行い、火災予防及び防犯予防を訴え、町民の防災意識の高揚に努めている。

階梯操法の実施活動

■　岐阜県　谷汲村消防団　■

人口：4,028 人　面積：72.85km^2
団員：143 人（うち女性 0 人）
所在地：揖斐郡谷汲村名札

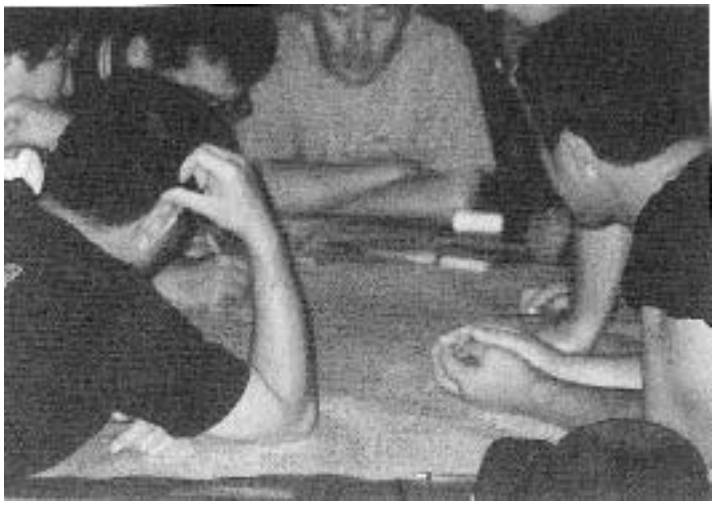
← 階梯作成の様子
↓ 階梯操法の様子

【活動内容】
昭和 32 年より、伝統的に受け継がれてきた階梯操法を守り続け、毎年、消防出初式と村民運動会とで披露している。15 年度からは消防団で階梯本体の製作もしており、一般住民に消防に対する理解を深めてもらう活動を積極的に行っている。この階梯操法の訓練は全員ができるように配慮し、将来も継承できるように努めている。

消防団協力隊の設立と震災対策活動

■　静岡県　磐田市消防団　■

人口：8 万 6,717 人　面積：64.27km^2
団員：565 人（うち女性 0 人）
所在地：磐田市今之浦 2 丁目 14 番地の 2
← 消防団協力隊の設立の様子
↓ ＤＩＧ講習実施の様子



【活動内容】
阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、全団員対象の救命指導者づくりに力を入れ、更には、消防団ＯＢで組織する消防団協力隊（101 名）の設立や、団員一人ひとりに対して震災活動マニュアルの作成を行った。また、図上訓練（DIG 講習）を取り入れ、予想される大規模災害（東海地震等）に対応でき得る体制づくりを目指している。

自主防災組織に対する防災指導

■　愛知県　名古屋市那古野消防団　■

人口：14 万 364 人　面積：17.90km^2（ともに西区）
団員：22 人（うち女性 0 人）
所在地：名古屋市西区那古野 2 丁目 17 番 8 号
←救出訓練指導の様子
↓救護訓練指導の様子

【活動内容】
東海・東南海・南海地震に備え、地元の 18 の自主防災組織の活動支援を積極的に行っている。発災時には隣近所で助け合えるよう指導し、例年、地域住民参加の防災訓練では、初期消火訓練や救出救護訓練、救命講習など、全て消防団員が指導者となって、地域の防災リーダーとしての役割を果たしている。

【消防団表彰】

木遣りの歌い込み、纏隊・鳶隊・はしご隊を発足

■　大阪府　松原市消防団　■

人口：13 万 2,562 人　面積：16.66km^2
団員：146 人（うち女性 0 人）
所在地：松原市阿保 1 丁目 16 番 2 号

← ↓ *出初式の様子*

【活動内容】
消防団の活性化のため、平成 14 年 4 月に大阪府下消防団では始めての、木遣りの歌い込み、纏隊・鳶隊・はしご隊を発足した。これらの演技は、伝統の演技に松原市独自の創意と工夫を凝らしたもので、平成 15 年出初式を皮切りに大阪府消防協会・大阪府下 10 市町村合同防災訓練で披露し、地域住民からは見事な演技を賞賛された。

全国女性消防操法大会出場等積極的に活動

■　奈良県　高取町消防団　■

人口：8,153 人　面積：25.77km^2
団員：67 人（うち女性 16 人）
所在地：高市郡高取町観覚寺 990 番地の 1
← *連合出初式の様子*
↓*全国女性消防操法大会出場者*

【活動内容】
女性消防団では、平成 15 年度に奈良県代表として、第 16 回全国女性操法大会に出場した。また、年間を通じて、出初式、火災予防週間中の防火パレード、危険物週間における危険物訓練、文化財防火週間における訓練、又、夏祭り等における警備等、地域住民と一体となって活動をしている。

防火パレード等で住民の防災意識の向上に貢献

■　和歌山県　有田市消防団　■

人口：3 万 3,661 人　面積：36.91km^2
団員：242 人（うち女性 0 人）
所在地：有田市古江見３７
← 防火パレード
↓ 消防フェスティバルでの様子

【活動内容】
毎年、春季及び秋季全国火災予防運動期間中に、火災予防思想の一層の普及を図るため、消防団だけでなく、婦人防火クラブ、幼年消防クラブ等と合同でパレードを実施し、また、有田市消防フェスティバルの煙体験等各種体験コーナーで、来場者に説明や誘導を行い、多くの市民の防災意識の向上に貢献している。

消防広報誌の発行

■　山口県　周南市消防団第四方面隊中央第十四分団　■

人口：15 万 6,608 人　面積：656.09km^2 （ともに周南市）
団員：45 人（うち女性 0 人）
所在地：周南市大字上村川本
← 周南市第１回操法大会の様子（広報「ほっとインフォメ」より）
↓山口県操法大会の様子（広報「ほっとインフォメ」より）

【活動内容】
昭和 52 年９月より、地区住民の防災コミュニティーとして広報誌の第 1 号を創刊し、毎年 1､3､6､9､11 月の５回発行している。火災発生状況・消防団諸行事や地域情報等を掲載されており、印刷・製本・配布を団員全員が分担し、地域住民の消防団への理解や信頼につなげ、消防団のイメージアップに貢献している。

【消防団表彰】

地域防災講習及び消火訓練で住民に防災指導

■　徳島県　三好町消防団　■

人口：6,174 人　面積：54.84km^2
団員：194 人（うち女性 0 人）
所在地：三好郡三好町昼間 3673 番地の 1
← *防火宣伝パレード*
↓ *地域防災講習及び消火訓練の様子*

【活動内容】
昭和 41 年より、防災講習等を行っている。各分団で予め訓練参加の呼び掛けと消火器の点検や有効期限切れの消火器の詰め換え等の指導を実施し、訓練当日は、火災等に対する知識・備えを指導し、消火器を使って消火訓練を行っている。また、火災予防運動期間中は、防火宣伝パレードを行って、地域の防火意識向上に努めている。

防火パレードで防災意識の啓発

■　香川県　高松市消防団仏生山分団　■

人口：33 万 2,865 人　面積：194.34km^2（ともに高松市）
団員：25 人（うち女性 0 人）
所在地：高松市仏生山町甲 2528-16

← ↓*防火パレードの様子*

【活動内容】
平成 6 年に発生した母子 4 人焼死という惨事を二度と繰り返さないために、分団が中心となり、同地域の婦人防火クラブ、消防後援会、少年消防クラブと合同して、年末夜警にあわせて、防火パレードを実施している。分団員作成のミニ消防自動車を先頭に、地域住民に火災予防を呼びかけ、現在、火災予防運動の輪は広がっている。

地域に密着した積極的な支援・啓発活動

■　愛媛県　松山市消防団　■

人口：47 万 3,379 人　面積：289.42km^2
団員：1,325 人（うち女性 62 人）
所在地：松山市本町 6 丁目 6 番地 1 号
← 防火広報の様子
↓ 救命講習の様子

【活動内容】
平成 14 年度より秋季火災予防運動の防火広報として女性消防分団や団幹部による部隊行進パレードを行い、平成 7 年度から団員対象の上級救命講習の実施している。また、平成 15 年度からは高齢者宅の防災訪問を実施し、女性団員はそれぞれの地域に居住する高齢者・身体障害者を中心に防災訪問をし、効果を発揮している。

幼年、児童に対する防火啓発活動

■　高知県　伊野町消防団枝川分団　■

人口：2 万 4,612 人　面積：100.58km^2（ともに伊野町）
団員：24 人（うち女性 2 人）
所在地：吾川郡伊野町枝川 2462
← 体験乗車の様子
↓放水体験の様子

【活動内容】
昭和 20 年代より、毎年初午の日に、区内の幼稚・保育園児及び児童（小学 4 年生）を集め、消防署の後援を得て防火指導を行っている。リレー競技形式での水消火器の取扱い訓練、体験乗車、放水体験等を実施し、児童やその父兄と身近に接することによって、防火思想の普及や地域住民の触れ合いの場を設ける一助となっている。

【消防団表彰】

各防災関係機関等との防災訓練を実施

■　宮崎県　都城市消防団　■

人口：13 万 2,146 人　面積：306.21km^2
団員：725 人（うち女性 17 人）
所在地：都城市姫城町 6 街区 21 号
← 舟艇訓練の様子
↓ 保育園での訓練の様子

【活動内容】
消防団独自の火災消火訓練、舟艇訓練、情報伝達訓練に励むだけでなく、自主防災隊、消防本部、警察署、自衛隊、市役所、日本赤十字、小学校等様々な機関と協力・連携して防災訓練を実施している。これらの訓練の積み重ねによって、地域住民の防災意識の高揚に大いに貢献している。

山岳救難時における救出・救助活動

■　鹿児島県　屋久町消防団　■

人口：6,869 人　面積：242.03km^2
団員：171 人（うち女性 0 人）
所在地：熊毛郡屋久町尾之間 157
←降下施設使った訓練の様子
↓　山岳救助訓練（メインルート確認）

【活動内容】
屋久町には毎年多数の観光客が訪れ、毎年山岳遭難が発生している。各分団から毎年約 5 名ずつ選出し、屋久町消防団山岳救助隊を結成し、遭難者の捜索活動をはじめ、山中における登山者の怪我等での救出活動を行っている。季節ごとに山を歩いて状況把握に努め、地域住民や登山者の遭難防止対策の啓発に力を入れている。

女性消防団員の積極的な活用

■　沖縄県　那覇市消防団第三分団　■

人口：301,032 人　面積：38.99km^2（ともに那覇市）
団員：15 人（うち女性 10 人）
所在地：那覇市銘苅 2 丁目 3 番 8 号

←　↓ 訓練での活動の様子

【活動内容】
　女性団員を積極的に採用しており、市内の各分団に比べて女性団員の割合が大きいが、男性団員同様活動し、訓練・警備等の活動で男女一致団結して取り組んでいる。また、火災予防運動期間中には、管轄区域内の市民に対し防火意識の啓発を行い、女性消防団員のきめ細かい心配りは、地域住民から好評を博している。

【事業所表彰】

地域に密着した地元消防団の活動を支援

■　北海道　道央農業協同組合北広島支所　■

人口：5 万 7,731 人　面積：118.54km^2
所在地：北広島市中央 1 丁目 2 番地 1
業種：小売業等
従業員：69 人
うち団員：9 人（北広島市消防団）
団員の活動延べ回数：108 回
時間：432 時間
人数：108 人

事業所外観 →

【活動支援内容】
道央農業協同組合は、それぞれの職員が地域活動に積極的に参加し、地域住民との関係を大事にし、地域密着型の職員となるよう日頃から努力している。特に北広島支所は消防団活動に特に深い理解を示し、職員数の 13%が消防団員として活躍している。15 年 6 月には北海道消防協会札幌地方支部の消防総合訓練大会が北広島市で開催され、この大会参加のための訓練を主として、火災に述べ 11 名、訓練に延べ 64 名、その他火災予防の街頭啓発や救急救命講習の指導員としての参加 33 名など、積極的に活動している。

消防団の災害出動に全面協力している事業所

■　栃木県　株式会社ヨックモック粟野　■

人口：1 万 636 人　面積：177.32km^2
所在地：上都賀郡粟野町大字久野 1315
業種：製造業
従業員：113 人
うち団員：7 人（鹿沼市消防団・粟野町消防団）
団員の活動延べ回数：26 回
時間：65 時間
人数：81 人

事業所の概要→

【活動支援内容】
火災・水防・捜索等の災害出動関係の出動については、日数にかかわらず出勤扱いで対応している。また、消防団行事関係、具体的には、夏季点検・通常点検等の点検、出初式、ポンプ操法訓練・山野火災中継送水訓練・文化財防火デー消防訓練・水防工法訓練等の訓練、初任教育・幹部教育・救急法講習会や消防学校での研修、夏祭り大会警備活動・一人暮らし老人防火指導等の地域活動など、規定の範囲内での年次休暇扱いではあるが、休暇がとれる体制をとっている。

地域に密着して消防団を支援

■　群馬県　沖電気工業株式会社金融ソリューションカンパニー　■

人口：23 万 9,904 人　面積：110.72km^2
所在地：高崎市双葉町 3 丁目 1 番地
業種：製造業
従業員：377 人
うち団員：8 人（高崎市消防団、前橋市消防団、松井田町消防団、箕郷町消防団、榛東村消防団）
団員の活動延べ回数：24 回
時間：60 時間
人数：60 人

電光掲示板の様子 →

【活動支援内容】
社員に対して、防災意識の向上と意識の高揚に努め、積極的に消防団への入団を働きかけ、執務中に災害が発生した場合には、団員社員を現場に出動させ、徹夜で消防活動を行い、出勤した団員社員に対しては、休憩をとらせるなど消防団活動に対して積極的に支援している。また、出初式や秋季点検さらには消防団の行事に団員社員が参加できるよう勤務割りやボランティア休暇等を設け協力している。平成 12 年からは、事業所所有の電光掲示板に「消防団員募集中」の掲示を積極的に行い、高崎市消防団員の確保に協力している。

地元消防団設立時から協力している事業所

■　新潟県　電気化学工業株式会社青海工場　■

人口：6 万 1,452 人　面積：184.35km^2
所在地：西頸城郡青海町大字青海 2209 番地
業種：製造業
従業員：1,567 人
うち団員：132 人（青海町消防団・糸魚川市消防団・能生町消防団）
団員の活動延べ回数：火災 4 回
時間：13 時間
人数：33 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
昭和 22 年の青海町消防団設立当初から、消防団員である勤務者を多数雇用している事業所であるので、総合科学企業という特徴より、自衛消防隊に化学車を 2 台所有しており、自社及び地域の災害に備えている。就業規則において消防団活動は公用休暇と位置付けし、災害時においても速やかな出動が可能である。また、過去の大災害においては、多くの消防団員ならびに社員を出動させ、事業所を挙げて地域の防災に努めている。現在、青海町消防団の約 3 分の 1 を占め、消防団幹部のポストにも多数在籍している。

【事業所表彰】

団員が安心して活動に専念できる環境を配慮

■　福井県　福井鋲螺（びょうら）株式会社　■

人口：1 万 7,822 人　面積：79.08km^2（金津町）
所在地：坂井郡金津町指中 59 号 115 番地
業種：製造業
従業員：406 人
うち団員：14 人（嶺北消防組合坂井消防団・金津消防団）
団員の活動延べ回数：8 回
時間：5 時間
人数：50 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
消防団員の災害防ぎょ活動及び地域における消防力・防災力の向上、地域コミュニティの活性化に大きな役割を果たす消防団活動に深い理解を示し、消防団員が火災等の災害時に緊急出動する場合には、就業規則等には特に明記していないが、遅刻、欠勤等の取扱いをしないという配慮を行っている。就業中、消防団活動のため、勤務者が早退を申し出た際にも、早退扱いにしないと、常に消防団に協力体制を敷いている。このような配慮により、勤務している消防団員が積極的に活動できるため、他の団員よりも出動率等が高く、団員も安心して活動に専念できる環境にある。

女性消防団員の確保にも協力的な事業所

■　滋賀県　三菱樹脂株式会社長浜工場　■

人口：6 万 104 人　面積：45.50km^2
所在地：長浜市三ツ矢町 5 番 8 号
業種：製造業
従業員：752 人
うち団員：９人（長浜市消防団）
団員の活動延べ回数：30 回
時間：88 時間
人数：30 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
平成 10 年より、長浜市消防団は女性消防団員 20 名を新規に採用する定数条例改正を行い、同年 10 月に 20 名を任用し発足した。発足当初より、20 名の枠中の 3 名は、事業所の女性従業員が消防団員として任命されており、退団があっても、代わりの女性従業員が必ず消防団員になるという積極的な社会貢献者育成を基本理念に消防団活動に深い理解と協力をしている。事前配慮によって比較的融通が叶う職場に配属された者を選考していることと、公的な仕事と見なし服務規制の中、工場長の許可によって出動しやすい環境が出来上がっていることから、防火啓発イベントや独居老人宅訪問等の活動等の出動率は、他の女性団員に比べて非常に高い。

消防団活動への積極的な参加を支援

■　京都府　日東精工株式会社　■

人口：3 万 8,881 人　面積：347.11km^2
所在地：綾部市井倉町梅ケ畑 20 番地
業種：製造業
従業員：875 人
うち団員：56 人（綾部市消防団）
団員の活動延べ回数：12 回
時間：43 時間 30 分
人数：12 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
防災・危機管理についての深い理解と企業の信条として地域社会の貢献を掲げており、社員教育の一環として消防団活動への積極的な参加を推進している。社員である消防団員が災害発生時に緊急出動した場合には、労働協約の中で休暇として認めており、また、休日や夜間に行われる消防団の研修、訓練及び防火活動においても、積極的な参加が認められ、消防団の幹部として活躍するものが多く、活動内容が優秀で他の団員の模範となっている。

地元消防団活動の中核となっている職員を支援

■　島根県　島根中井工業株式会社　■

人口：2,691 人　面積：132.64km^2
所在地：美濃郡美都町大字仙道 851 番地 1
業種：製造業
従業員：94 人
うち団員：21 人（美都町消防団・益田市消防団・匹見町消防団）
団員の活動延べ回数：5 回
時間：116 時間
人数：24 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
操業当初より「地域に愛される会社、地域に貢献できる会社」を理念とし、地域活動に積極的に協力している。特に消防団員は、美都町の全消防団員の 2 割に上る 21 人を有し、就業中の出動に対しては、勤務扱いとしており、町外就業者の多い本町消防団の昼間災害における消防団活動の中心的な役割を果たしている。なお、積載車を配備して自衛消防隊を組織し、自家火災に備えるとともに定期的な訓練を行い、社員の防火思想の啓発に努めている。

【事業所表彰】

地域と応援協定を締結する事業所

■　岡山県　三井造船株式会社玉野事業所　■

人口：6 万 9,567 人　面積：103.60km^2
所在地：玉野市玉 3 丁目 1 番 1 号
業種：製造業
従業員：1,900 人
うち団員：46 人（玉野市消防団）
団員の活動延べ回数：9 回
時間：27 時間
人数：112 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】

昭和 54 年 12 月に玉野市消防本部と玉地区消防応援協定を締結し、区管内の火災発生時には、同社の自衛消防隊を派遣するなど地域に貢献している。消防団員である職員が勤務中に地域で火災が発生した場合には各職員への出門の許可、鎮火鎮圧後の職場復帰も認めている。大規模林野火災等の出動に際し、会社を休業して消防団活動に参加する場合には、年次休暇の使用を問題なしとし、本人が年次休暇不足で欠勤する場合には、公休扱いを認めている。また、消防操法大会及びこれに関する練習について、会社施設であるグラウンドを場所として提供している。

全面的な支援で団員の出動率が高い事業所

■　福岡県　医療法人医和基会　■

人口：6 万 5,045 人　面積：16.66km^2
（ともに戸畑区）
所在地：北九州市戸畑区初音町 13 番 13 号
業種：その他
従業員：404 人
うち団員：13 人（戸畑消防団）
団員の活動延べ回数：109 回
時間：164 時間
人数：157 人

女性消防団員の独居老人宅訪問 →

【活動支援内容】

地域防災の根幹を担う消防団活動にグループ全体で理解を示している。事業所独自の消防団規則があり、消防団活動をする職員に内部規定を設けている。その中で地域の有事の際に、また、訓練行事参加は勤務中も消防団員が活動しやすいように、職務の免除や特別休暇等を定めている。入団は個人の自由であるが、少ない男性スタッフから概ね 45 歳までの健康な方を積極的に消防団員に推薦しており、次に控える男性も現在養成中である。また、勤続表彰等も設けている。これらの支援から、職員消防団員の勤務中における災害出動率も 69%強と高い。

地元消防団の幹部を輩出している事業所

■　熊本県　三栄開発株式会社　■

人口：1 万 2,386 人　面積：296.42km^2
所在地：上益城郡矢部町大字上寺 45 番地
業種：製造業
従業員：95 人
うち団員：20 人（矢部町消防団、蘇陽町消防団、清和村消防団）
団員の活動延べ回数：7 回
時間：11 時間
人数：42 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
従業員の約 2 割以上が消防団員として活動しており、そのうち、幹部として現職副団長 1 名のほか、過去に、前消防団長を勤めた者（1 名）、元分団長を勤めた者（4 名）など、矢部町消防団のリーダーを輩出してきている。消防団にも協力的であり、勤務中の消防団活動は有給扱いにするなど、円滑な消防団活動のために貢献をしている。

消防団活動規則を設けている事業所

■　大分県　日本調理機株式会社大分工場　■

人口：1 万 8,241 人　面積：162.17km^2
所在地：大野郡三重町芦刈字台ノ下 1018
業種：製造業
従業員：62 人
うち団員：22 人（三重町消防団）
団員の活動延べ回数：3 回
時間：11 時間
人数：10 人

事業所の外観 →

【活動支援内容】
消防団活動に対して全面的に協力体制で臨んでいる。消防団活動規則を設け、消火活動や行方不明者の捜索出動に係る要請があった場合には、地元分団団員の出動を優先に許可し、他団員については、工場の作業状況等をみて、工場管理責任者が出動人員を決めている。（行方不明者捜索については、長期捜索を想定し交代制もある。）また、平成 5 年 11 月に地元消防団で活躍している従業員を中心に「工場自衛消防隊」を編成し、毎年、消防団員の操法訓練を兼ねて火災防御訓練等を実施している。

編：総務省消防庁消防課
〒100-8927　東京都千代田区霞が関二丁目１番２号
電話　03-5253-5111（代表）
03-5253-7522（直通）
ファクシミリ　03-5253-7532